

特集 2007 年度・2008 年度開設博物館情報
(開設博物館一覧表：222 館掲載)

特集 2007 年度・2008 年度リニューアル博物館情報
(リニューアル博物館一覧表：263 館掲載)

特集：2007 年度・2008 年度開設博物館情報

丹青研究所調べによる、2007 年度・2008 年度（2007 年 4 月～2009 年 3 月）に開設した全国の主な博物館数は 222 館です。ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2007・2008 年度の開設博物館について傾向を示し、都道府県別の開設博物館リストを掲載します。

■ 2007・2008 年度開設博物館の傾向

222 館の内訳は、2007 年度（2007 年 4 月～2008 年 3 月）開設博物館 128 館、2008 年度（2008 年 4 月～2009 年 3 月）開設博物館 94 館です。なお、この値には、設置場所（敷地）を換えて新たな施設を整備した「移転新築施設」や、建物の老朽化や機能の見直し・拡張などを理由に、旧施設を取り壊して新たに建設した「取り壊し新築施設」が含まれています。また、寄贈・移管・移譲・購入により、設置・運営主体を替え、新たな施設となったものも含まれています。

2007 年度開設博物館には、小樽市総合博物館（北海道）、鉄道博物館（埼玉県）、千葉市科学館（千葉県）、国立ハンセン病資料館（東京都）、横須賀美術館（神奈川県）、松本市山と自然博物館（長野県）、藤枝市文学館（静岡県）、ヒューモビリティワールド館（大阪府）、兵庫県立考古博物館、稲むらの火の館（和歌山県）、海上自衛隊呉史料館てつのくじら館（広島県）、坂の上の雲ミュージアム（愛媛県）、沖縄県立博物館・美術館などが見られます（後掲の「2007 年度開設博物館一覧表」をご参照ください）。

一方、2008 年度開設博物館には、十和田市現代美術館（青森県）、仙台市天文台（宮城県）、芳賀町総合情報館＜博物館・図書館・文書館の複合施設＞（栃木県）、木更津市郷土博物館金のすず（千葉県）、國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館（東京都）、国文学研究資料館（東京都）、東京おもちゃ美術館（東京都）、戸隠地質化石博物館（長野県）、碧南市藤井達吉現代美術館（愛知県）、香川大学博物館（香川県）、平賀源内記念館（香川県）、長崎純心大学博物館（長崎県）などが見られました（後掲の「2008 年度開設博物館一覧表」をご参照ください）。

また、今回の調査では、博物館に類する施設として、常設の展示空間を有して、資料を展示したり、普及啓発活動などを行っている施設も対象に含めています。

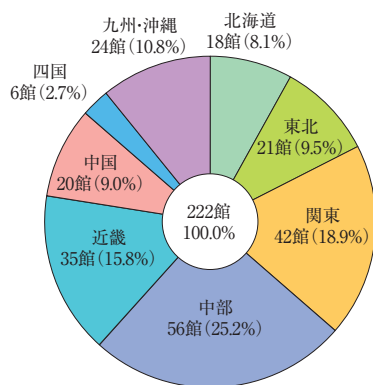
前回 2006 年度開設博物館に関する調査報告（本誌 74 号に掲載）を行った際にも指摘しましたように、新設の博物館数は年々、少なくなっています。これは、全国各地に博物館及び博物館に類する施設が数多く設置されている状況からも理解できます。そうした中、2007・2008 年度の開設博物館を概観すると、個人記念館をはじめ、地域特有（固有）の資源を紹介する施設や、特定のテーマに基づいた展示施設、「まちなか再生」や「活性化」を目的に市街地に設置された資料館・美術館、道の駅に併設された展示施設、歴史的建造物や遺跡公園・自然公園のガイダンス施設、企業や大学がこれまでの歩みを振り返りながら現在の活動を伝える展示施設などが見られ、バラエティに富んでいることがわかります。

■地方別に見た開設傾向

合計 222 館を開設数の多い地方順に見ると、中部 (56 館／新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知)、関東 (42 館／茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川)、近畿 (35 館／三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)、九州・沖縄 (24 館／福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)、東北 (21 館／青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)、中国 (20 館／鳥取、島根、岡山、広島、山口)、北海道 (18 館)、四国 (6 館／徳島、香川、愛媛、高知) となります。

2007・2008 年度の 2 カ年で 10 館以上の新たな施設を確認できたのは、東京都 (23 館)、北海道 (18 館)、長野県 (11 館)、愛知県 (11 館)、兵庫県 (10 館) でした。一方、鳥取県、徳島県、高知県、佐賀県の 4 県については、新たな開設を確認することができませんでした。人口の多い地域や大都市圏・観光圏を中心に新たな施設が開設されていることがわかります。

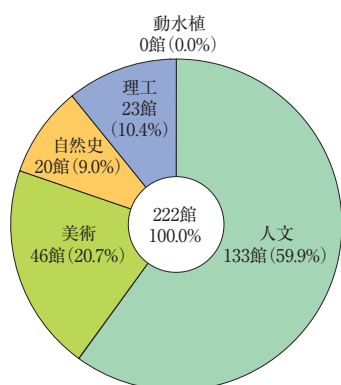
<図-1> 地方別開設博物館数の比率



■館種別に見た開設傾向

これまでに行った年度別開設博物館に関する調査結果 (結果は、全て本誌バックナンバーにおいて掲載) と同様、歴史博物館や考古博物館、郷土資料館、文学館、総合博物館などを含む「人文」系施設が最も多く、全体の約 6 割を占めています。美術館や画家の記念館などを含む「美術」系施設も全体の 2 割程度を占めています。また、自然や環境について学ぶ施設などを含む「自然史」系施設、宇宙・天体、科学技術について学ぶ施設などを含む「理工」系施設はともに全体の 1 割程度を占めています。

<図-2> 館種別開設博物館数の比率



■設立主体別に見た開設傾向

「法人」による施設が最も多く、全体の 3 分の 1 以上を占めています。「法人」の内訳に目を転じると、株式会社 (44 館)、財団法人 (13 館)、学校法人 (8 館)、NPO 法人 (8 館)、宗教法人 (3 館)、社団法人 (3 館)、有限会社 (2 館)、社会福祉法人 (1 館) で構成されています。中でも、企業による施設が多く見られたのが特徴的です。株式会社帆風、株式会社バンダイ、ソニー株式会社、株式会社帝国データバンク、株式会社岡村製作所、株式会社北陸銀行、株式会社デンソー、オムロン株式会社、ダイハツ工業株式会社、象印マホービン株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社奥村組、オタフクソース株式会社、株式会社山口銀行、宇部興産株式会社などの施設が新たに開設しました。「財団法人」に含んでいますが、財団法人東日本鉄道文化財団 (2010 年 4 月～公益財団法人に移行) が設立した鉄道博物館も企業による施設と捉えることができます。また、学校法人 (全て私立大学の設置した大学博物館) による施設や NPO 法人による施設が多く見られたのも、近年の特徴として挙げるができます。

続いて「市・区」による施設が多く、「法人」同様、全体の 3 分の 1 程度を占めています。区立の施設では、目黒区、豊島区、大田区が新たな施設を開設しました。「法人」と「市・区」による施設で全体の 7 割を示しています。

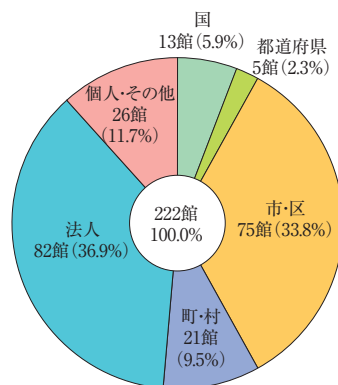
「個人・その他」ですが、「その他」には組合による施設をはじめ、市民団体、顕彰会、自治会、任意団体による施設、さらには県と町が共同で設立した施設などが含まれています。

また、「国」には、国立ハンセン病資料館、国文学研究資料館をはじめ、防衛省、環境省、文部科学省による施設、国立大学法人や独立行政法人による施設などが含まれています。

開設数は最も少ない「都道府県」ですが、兵庫県立考古博物館や沖縄県立博物館・美術館などが新たに開設しました。

なお、この期間は、2007 年 4 月 1 日に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合され、新たな独立行政法人国立文化財機構が発足したり、2008 年 12 月に公益法人改革関連 3 法が施行されるなど、現在に至る「公益法人改革」が本格的に始まった時期でもありました。1999 年以来、盛んに全国各地で取り組まれた「市町村合併」も引き続き各地で見られました。

<図-3> 設立主体別開設博物館数の比率

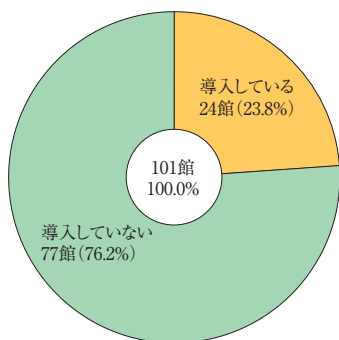


■指定管理者について

2003年9月に施行された地方自治法の改正を受けて導入された「公立施設における指定管理者制度」について調査した結果、2007・2008年度開設博物館（公立）の約4分の1の施設で導入していることがわかりました。なお、「導入していない」施設のうち、4館は「指定管理者制度の導入を検討中」と回答しています。

指定管理者には、財団法人、株式会社をはじめ、共同事業体、社団法人、NPO法人、観光協会、漁業協同組合、地区のコミュニティ振興会などが見られました。

＜図－4＞指定管理者制度の導入状況



■施設の形態について

博物館を単独の建物として設置しているか、それとも建物内に博物館を複合・併設する形態で設置しているかについて調査した結果、「単独の建物である」館は全体の半数以上となりました。一方、「他施設との複合・併設である」館は全体の4割強を示しています。

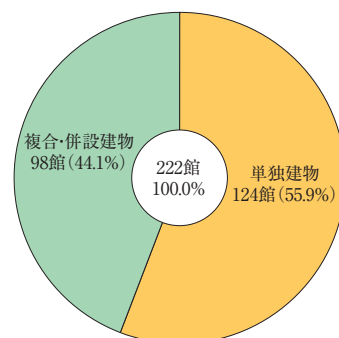
「複合・併設」の形態（回答）に目を転じると、「他の博物館との複合・併設」が8館（博物館と美術館の組み合わせ、歴史民俗資料館と記念館の組み合わせ、文学館と郷土博物館の組み合わせなど）、「博物館以外の社会教育施設・文化施設との複合・併設」が17館（図書館、文化センター、生涯学習センター、公民館、勤労福祉会館、交流プラザなどとの組み合わせ）、「学校との複合・併設」が10館（全て大学の校舎内に設置）、「企業、官公庁との複合・併設」が24館（企業博物館以外は、庁舎、行政センター、消防署、無線中継所、オフィスビルなどとの組み合わせ）、「研究施設との複合・併設」が3館（研究所などとの組み合わせ）、「商工施設との複合・併設」が7館（ファッションビルなどとの組み合わせ）、「観光施設との複合・併設」が10館（物産館、ホテル、道の駅、リゾート施設などとの組み合わせ）、「住宅との複合・併設」が2館（マンションとの組み合わせ）、「その他の施設との複合・併設」が17館（子育て支援施設、ボランティアセンター、文化財＜歴史的建造物＞、灯台、同窓会館などとの組み合わせ）であることがわかります。

こうした複合・併設形態のバリエーションは、近年ますます多様化しているため、興味深い傾向が看取できました。

整備コストの縮減・節減を目的とした取り組みとしてだけでなく、集客性や（アクセスなども考慮した）利用しやすさ、さ

らには複数の施設の組み合わせによる利便性や魅力の向上、博物館としての事業展開の多様化などにつながると望ましいと考えます。

＜図－5＞施設の形態（単独／複合・併設）



博物館の設置にあたって、既存の建物や歴史的建造物を活用・転用して行っているかについて調査した結果、全体の半数以上が、こうした建物を活用・転用して博物館を設置していることがわかりました。新たに施設を建設したのは全体の4割強でした。

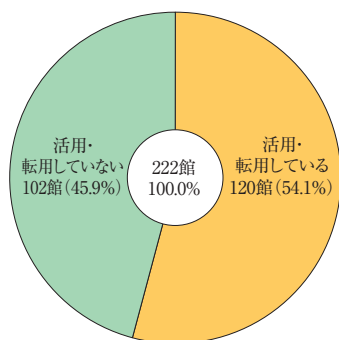
「活用・転用」の形態（回答）に目を転じると、「既存の建物」として、（旧）庁舎、（旧）校舎・大学会館、（旧）銀行、（旧）宿泊施設（温泉旅館など）、文化センター、公民館、図書館、体育館、（旧）児童館、物産館、（旧）商工会議所、研修施設、空き店舗、オフィス、土木事務所、倉庫、民家、アトリエ、アミューズメント施設、工場（織物工場など）、使われなくなった資料館などが挙げられています。この中には、木更津市郷土博物館金のすず（旧千葉県立上総博物館）、豊島区立熊谷守一美術館（個人美術館であった旧熊谷守一美術館）、葦崎市立葦崎大村美術館（個人美術館であった旧葦崎大村美術館）も含まれています。

「歴史的建造物」は、明治時代の車庫・倉庫、旧郡役所、作家の旧居・工房、旧看護師宿舍、観測所旧館、旧駅舎、旧制高校、伝統的建造物群保存地区の古民家、地元名士の旧宅、町屋、大正時代の民家・蔵、昭和初期の建物、登録文化財や産業遺産の建物などが挙げられています。

少子化や市町村合併により統廃合された旧校舎や庁舎などの公共施設、街中に設置された建物の空きスペースの活用、さらには地域に必要な資源として歴史的建造物を保存・活用するための方策としての整備や、こうした建造物に展示機能を加えることによって観光資源としての魅力向上を図る整備など、施設によって様々な目的が看取できます。これからも建物・設備の老朽化の補修や防災対策としての取り組みとともに、既存インフラの活用・転用策の一環として博物館整備が各地で見られると考えています。

単に利用されていない施設や空きスペースを活用するのではなく、資料の保存、資料の公開、普及啓発の促進など、博物館としての事業活動に適した環境整備を図るとともに、利用者に親しまれるための博物館としての雰囲気づくりが求められます。

<図－6>施設の形態（既存施設や歴史的建造物の活用・転用）



■施設規模について

有効データ数：177館 2007・2008年度開設博物館の延床面積を集計した結果、最大値は28,322㎡、最小値は40㎡、平均値は1,488㎡、中央値は638㎡でした。新たに開設した博物館の施設規模の範囲（大小）の広さとともに、中央値が平均値を大きく下回っていることから、中・小規模の施設が多いことがわかります。

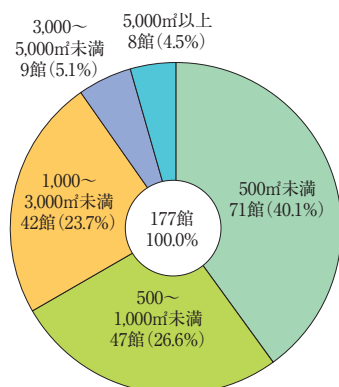
規模（延床面積）別開設博物館数の比率を示したグラフを見ると、1,000㎡未満の施設の占める割合が66.7%を数え、大半の施設がこの区分に属していることがわかります。一方、3,000㎡以上の施設も全体の約1割（9.6%）を示しています。

館種別の延床面積を見ると、「理工」が平均値、中央値ともに全体の数値を大きく上回っており、規模の大きい施設が複数開設されたことがわかります。一方、「人文」と「美術」では平均値、中央値が全体の数値を下回っています。

館種で見る規模（延床面積）別開設博物館数の比率を示したグラフでも、「人文」と「美術」が他の館種に比べて500㎡未満の施設が多いことや、「理工」は他の館種に比べて大規模施設の占める割合が高いことがわかります。

設立主体別の延床面積を見ると、「都道府県」が平均値、中央値ともに全体の数値を大きく上回っており、規模の大きい施設が複数開設されたことがわかります。また、「国」と「市・区」も平均値、中央値が全体の数値を上回っています。一方、小規模施設の多い「個人・その他」とともに、「町・村」、「法人」も平均値、中央値が全体の数値を下回っていることがわかります。

<図－7>規模（延床面積）別開設博物館数の比率

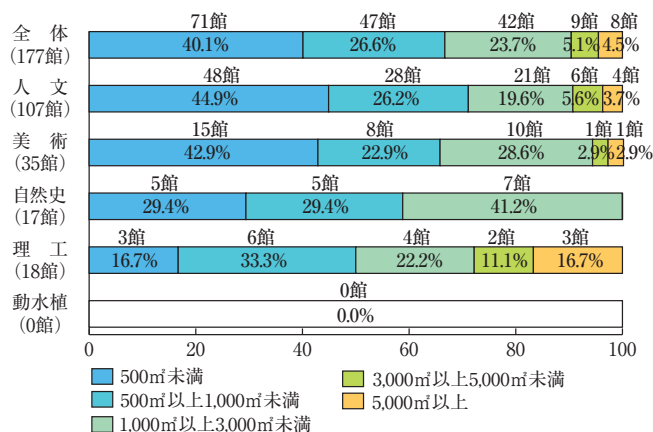


<表－1>館種別の延床面積（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体（177館）	28,322	40	1,488	638
人文（107館）	23,722	40	1,242	556
美術（35館）	12,095	56	1,172	547
自然史（17館）	2,992	60	1,181	993
理工（18館）	28,322	372	3,853	1,142
動水植（0館）	-	-	-	-

※（ ）内は有効データ館数 ※単位は㎡

<図－8>館種で見る規模（延床面積）別開設博物館数の比率



<表－2>設立主体別の延床面積（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体（177館）	28,322	40	1,488	638
国（10館）	4,282	250	1,593	1,180
都道府県（5館）	23,722	190	7,499	3,900
市・区（66館）	13,066	40	1,787	960
町・村（17館）	1,694	47	628	530
法人（56館）	28,322	51	1,313	575
個人・その他（23館）	1,700	50	337	176

※（ ）内は有効データ館数 ※単位は㎡

■総工事費について

有効データ数：98館 総工事費を集計した結果、最大値は12,825,000千円、最小値は1,200千円、平均値は960,647千円、中央値は194,572千円でした。施設規模でも触れたように、中央値が平均値を大きく下回っていることから、中・小規模（総工事費）の施設が多いことがわかります。

総工事費別開設博物館数の比率を示したグラフを見ると、5,000万円未満の施設の占める割合が25.5%を数える一方、10億円以上の施設も全体の21.4%を示しています。また、1億～5億円未満の施設が全体の3分の1以上（34.7%）を占めています。

館種別の総工事費を見ると、「理工」が平均値、中央値ともに全体の数値を大きく上回っており、規模の大きい施設が複数開設されたことがわかります。一方、「人文」と「美術」は平均値、中央値ともに全体の数値を下回っています。

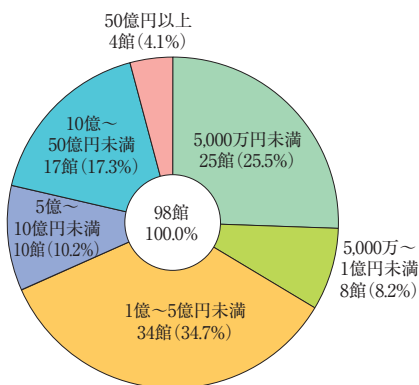
館種で見る総工事費別開設博物館数の比率を示したグラフでも、「人文」と「美術」が他の館種に比べて5,000万円未満の施設が多いことや、「理工」は他の館種に比べて大規模施設の占める割合が高いことがわかります。

設立主体別の総工事費を見ると、「都道府県」が平均値、

中央値ともに全体の数値を大きく上回っており、規模の大きい施設が複数開設されたことがわかります。一方、「個人・その他」と「町・村」では平均値、中央値が全体の数値を大きく下回っていることがわかります。

延床面積と総工事費の2つの項目で2007・2008年度開設博物館を見た場合、館種や設立主体による多少の偏りは見られるものの、全体的には中・小規模の施設傾向が強いことがわかります。

<図-9> 総工事費別開設博物館数の比率

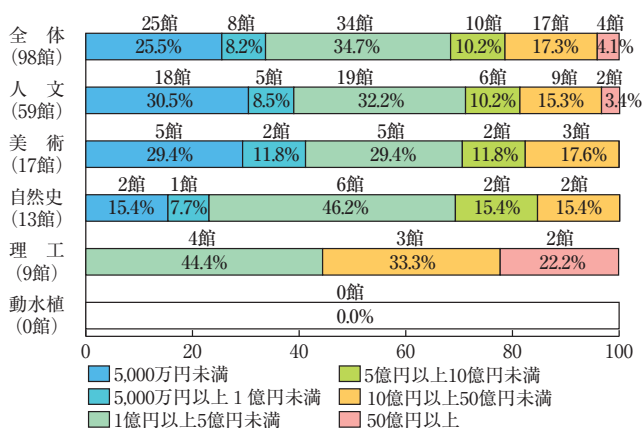


<表-3> 館種別の総工事費（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (98 館)	12,825,000	1,200	960,647	194,572
人 文 (59 館)	12,825,000	1,200	796,802	139,999
美 術 (17 館)	4,397,000	5,000	575,849	147,661
自然史 (13 館)	2,000,000	14,551	500,465	280,000
理 工 (9 館)	12,400,000	117,800	3,426,285	1,975,000
動水植 (0 館)	-	-	-	-

※ () 内は有効データ館数 ※ 単位は千円

<図-10> 館種で見る総工事費別開設博物館数の比率



<表-4> 設立主体別の総工事費（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (98 館)	12,825,000	1,200	960,647	194,572
国 (6 館)	2,000,000	100,000	951,167	653,500
都道府県 (4 館)	12,825,000	851,000	5,138,131	3,438,262
市・区 (44 館)	8,450,000	5,000	1,050,711	254,500
町・村 (12 館)	517,000	11,000	134,583	65,000
法人 (22 館)	12,400,000	23,000	833,904	200,000
個人・その他 (10 館)	1,086,000	1,200	169,167	29,636

※ () 内は有効データ館数 ※ 単位は千円

■ 2007・2008年度開設博物館の運営状況について

ここでは、職員の配置状況（総職員数、研究・学芸系職員数、事務・管理系職員数、常勤職員数、非常勤職員数）について集計した結果を報告します。

総職員数の比率を見ると、5人以下の施設が全体の56.2%を占めています。そのうち、3人以下の施設は全体の3分の1以上(35.7%)に該当します。一方、10人以上の職員を有する施設は全体の約4分の1(24.6%)を示しています。総職員数の最大値は101人、最小値は1人、平均値は9.2人、中央値は5人でした。

研究・学芸系職員数の比率を見ると、1人もしくは2人の施設が全体の4割以上(43.5%)を占めています。研究・学芸系職員を配置していない施設も全体の3分の1(33.3%)を数えました。一方、10人以上の研究・学芸系職員を有する施設は全体の約1割(10.1%)を示しています。研究・学芸系職員数の最大値は89人、最小値は0人、平均値は3.8人、中央値は1人でした。

事務・管理系職員数の比率を見ると、1人、2人、3人の施設が全体の半数近く(49.2%)を占めています。事務・管理系職員を配置していない施設は全体の5.8%とわずかです。一方、10人以上の事務・管理系職員を有する施設は全体の約1割(14.4%)を示しており、研究・学芸系職員の傾向に類似しています。事務・管理系職員数の最大値は24人、最小値は0人、平均値は4.8人、中央値は3人でした。平均値、中央値ともに研究・学芸系職員の数値を上回っています。

常勤職員数の比率を見ると、1人もしくは2人の施設が全体の約3割(31.0%)を占めています。常勤職員を配置していない施設も全体の5分の1(21.1%)を数えました。一方、10人以上の常勤職員を有する施設は全体の約1割(12.6%)を示しています。常勤職員数の最大値は46人、最小値は0人、平均値は5.5人、中央値は2人でした。

非常勤職員数（嘱託、臨時職員を含む）の比率を見ると、1人、2人、3人の施設が全体の半数以上(52.1%)を占めています。非常勤職員を配置していない施設も全体の約2割(21.1%)を示しています。一方、10人以上の非常勤職員を有する施設は全体の約1割(9.9%)を示しており、常勤職員の傾向に類似しています。非常勤職員数の最大値は55人、最小値は0人、平均値は3.8人、中央値は2人でした。

<表-5> 総職員数の比率

総職員数	回答館	構成比
1 人	8 館	11.0%
2 ～ 3 人	18 館	24.7%
4 ～ 5 人	15 館	20.5%
6 ～ 7 人	10 館	13.7%
8 ～ 9 人	4 館	5.5%
10 ～ 15 人	9 館	12.3%
16 ～ 20 人	2 館	2.7%
21 人以上	7 館	9.6%
全 体	73 館	100.0%

<表－6>研究・学芸系職員数の比率

研究・学芸系職員数	回答館	構成比
0 人	23 館	33.3%
1 人	20 館	29.0%
2 人	10 館	14.5%
3 人	2 館	2.9%
4 人	5 館	7.2%
5～9 人	2 館	2.9%
10～20 人	5 館	7.2%
21 人以上	2 館	2.9%
全 体	69 館	100.0%

<表－7>事務・管理系職員数の比率

事務・管理系職員数	回答館	構成比
0 人	4 館	5.8%
1 人	13 館	18.8%
2 人	12 館	17.4%
3 人	9 館	13.0%
4 人	3 館	4.3%
5～9 人	18 館	26.1%
10～20 人	9 館	13.0%
21 人以上	1 館	1.4%
全 体	69 館	100.0%

<表－8>常勤職員数の比率

常勤職員数	回答館	構成比
0 人	15 館	21.1%
1 人	14 館	19.7%
2 人	8 館	11.3%
3 人	5 館	7.0%
4 人	4 館	5.6%
5～9 人	16 館	22.5%
10～20 人	4 館	5.6%
21 人以上	5 館	7.0%
全 体	71 館	100.0%

<表－9>非常勤職員数の比率

非常勤職員数	回答館	構成比
0 人	15 館	21.1%
1 人	13 館	18.3%
2 人	14 館	19.7%
3 人	10 館	14.1%
4 人	5 館	7.0%
5～9 人	7 館	9.9%
10～20 人	6 館	8.5%
21 人以上	1 館	1.4%
全 体	71 館	100.0%

最後に入館者数について報告します。開館後の入館者数について調査した結果（有効データ数：79 館）、年間入館者数 10 万人以上を数える館が全体の 15% 程度（12 館：15.1%）を示す一方、年間入館者数 1 万人未満に該当する館は全体の半数近く（37 館：46.8%）となりました。「1 万人未満」と「1 万～3 万人未満（21 館：26.6%）」の施設を合わせると、全体の約 4 分の 3 の施設（73.4%）がこの区分に属する結果となりました。

2007・2008 年度開設博物館一覧表

丹青研究所調べによる 2007・2008 年度（2007 年 4 月～2009 年 3 月）の主な開設博物館リストです。この中には、旧施設を発展的に解消して移転新築、取り壊し新築した館も含まれています。

● 2007 年度開設博物館（2007 年 4 月～2008 年 3 月）

館 園 名	開設年月	所 在 地
大野勝彦美術館	2007.07	北海道上川郡美瑛町ルベシベ第 2
小樽市総合博物館	2007.07	北海道小樽市手宮 1-3-6
旧檜山爾志郡役所 (江差町郷土資料館)	2007.04	北海道檜山郡江差町中歌町 112
更科源蔵文学資料館	2007.04	北海道川上郡弟子屈町中央 2-4-1 弟子屈町図書館内
洞爺湖町立火山科学館	2007.04	北海道虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉 142-5
洞爺湖ビクターセンター	2007.04	北海道虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉 142-5
西川徹郎文学館	2007.05	北海道旭川市 7 条通 8
のぼりべつ文化交流館 カント・レラ	2007.06	北海道登別市登別温泉町 123-1
福原記念美術館	2007.07	北海道河東郡鹿追町泉町 1-21
北鎮記念館	2007.06	北海道旭川市春光町陸上自衛隊旭川駐屯地内
幌延深地層研究センターPR施設 「ゆめ地創館」	2007.06	北海道天塩郡幌延町北進 432-2
松坂大輔スタジアム	2008.02	北海道稚内市港 1-6-33
羅臼ビクターセンター	2007.05	北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町 6-27
六花の森 坂本直行記念館	2007.09	北海道河西郡中札内村常盤西 3 線 249-6
帆風美術館	2008.01	青森県八戸市北インター工業団地 1-5-2 八戸グリーンハイテクランド内
芦東山記念館	2007.10	岩手県一関市大東町洗民伊勢堂 71-17
早池峰と賢治の展示館	2007.10	岩手県花巻市大迫町大迫 3-161
るんびにい美術館	2007.11	岩手県花巻市星ヶ丘 1-21-29
栗原市防災学習センター	2007.05	宮城県栗原市築館留場中田 111-1 消防本部（栗原消防署）
Satoru Sato Art Museum (サトル・サトウ・アート・ミュージアム)	2007.07	宮城県登米市中田町上沼館 43 登米市中田生涯学習センター 3F
多賀城市埋蔵文化財調査センター 体験館「多賀城史遊館」	2007.11	宮城県多賀城市中央 2-25-5
登米市消防防災センター	2008.03	宮城県登米市迫町森平柳 25
佐竹歴史文化博物館 (佐竹工芸美術館・金銀銅漆目金美術館・ 林美光美術館)	2007.10	秋田県仙北市角館町小人町 38-4
野口雨情記念湯本温泉童謡館	2008.01	福島県いわき市常磐湯本町三函 204
フラ・ミュージアム	2007.11	福島県いわき市常磐藤原町藤平 50 スパリゾートハワイアンズ内
北茨城市漁業歴史資料館 「よう・そろー」	2007.05	茨城県北茨城市関南町仁井田 789-2
筑波大学ギャラリー	2007.07	茨城県つくば市天王台 1-1-1
うつのみや妖精ミュージアム	2007.07	栃木県宇都宮市馬場通り 4-1-1 うつのみや表参道スクエア内 市民プラザ 5 階
大田原市那須与一伝承館	2007.10	栃木県大田原市南金丸 1584-6
おもちゃのまち バンダイミュージアム	2007.04	栃木県下都賀郡壬生町おもちゃのまち 3-6-20
現代からくりおもちゃ美術館・ ぼるべっば	2007.07	群馬県前橋市富士見町赤城山 1788-14
越谷市リサイクルプラザ	2007.11	埼玉県越谷市砂原 355
鉄道博物館	2007.10	埼玉県さいたま市大宮区大成町 3-47
日本薬科大学漢方資料室	2007.09	埼玉県北足立郡伊奈町小室 10281
印西市立印旛医科器械 歴史資料館	2007.04	千葉県印西市舞姫 1-1-1
千葉市科学館	2007.10	千葉県千葉市中央区中央 4-5-1 複合施設「Qiball（きばーる）」内
日本近代文学館 成田分館	2007.09	千葉県成田市駒井野新堀 1705-3
秋山庄太郎写真芸術館	2007.06	東京都港区南青山 4-18-9
大島町貝の博物館 「ばれ・らめ〜る」	2007.12	東京都大島町差木地クダッチ 大島町勤労福祉会館内
国立ハンセン病資料館	2007.04	東京都東村山市青葉町 4-1-13

こども鉱物館	2007.08	東京都渋谷区神宮前 2-30-4	オムロン コミュニケーションプラザ	2007.07	京都府京都市下京区塩小路通堀川東入 オムロン京都センタービル啓真館内
ソニー歴史資料館	2007.04	東京都品川区北品川 6-6-39	まいづる 智恵蔵	2007.04	京都府舞鶴市北吸 1039-12
帝国データバンク史料館	2007.04	東京都新宿区本塩町 22-8	池田市立上方落語資料展示館 (落語みゅーじあむ)	2007.04	大阪府池田市栄本町 7-3
豊島区立熊谷守一美術館	2007.11	東京都豊島区千早 2-27-6	大阪医科大学歴史資料館	2007.11	大阪府高槻市大学町 2-7
日野市立日野宿交流館	2007.05	東京都日野市日野本町 7-5-6	田辺聖子文学館	2007.06	大阪府東大阪市菱屋西 4-2-26 大阪樟蔭女子大学 小阪キャンパス 図書館内
ポーラ化粧品文化情報センター	2008.03	東京都品川区東五反田 5-24-10 テラサキ第3ビル 2F ポーラ文化研究所内	ヒューモビリティワールド館	2007.05	大阪府池田市ダイハツ町 1-1
三鷹市太宰治文学サロン	2008.03	東京都三鷹市下連雀 3-16-14 グランジャルダン三鷹 1 階	GLORY NEXT GALLERY	2008.03	兵庫県姫路市下手野 1-3-1 グローリー株式会社 本社内
木材・合板博物館	2007.10	東京都江東区新木場 1-7-22 新木場タワー 3F・4F	多田銀銅山 悠久の館	2007.04	兵庫県川辺郡猪名川町銀山長家前 4-1
文部科学省 情報ひろば	2008.03	東京都千代田区霞が関 3-2-2 旧文部省庁舎	ひめじ防災プラザ	2007.04	兵庫県姫路市三左衛門堀西の町 3 姫路市防災センター 1 階
横須賀美術館	2007.04	神奈川県横須賀市鴨居 4-1	ひょうご環境体験館	2008.03	兵庫県佐用郡佐用町光都 1-330-3
朝日町埋蔵文化財施設 まいぶん K A N	2007.05	富山県下新川郡朝日町不動堂 214	兵庫県立考古博物館	2007.10	兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1
大伴三彌 ステンドグラス記念館	2007.12	富山県射水市串田 6841	石橋信夫記念館	2007.04	奈良県奈良市左京 6-6-2 大和ハウス工業 総合技術研究所内
隠し文学館 花ざかりの森	2008.03	富山県富山市向新庄町 2-4-65	奥村記念館	2007.04	奈良県奈良市春日野町 4
高岡市鑄物資料館	2007.04	富山県高岡市金屋町 1-5	奈良大学博物館	2007.04	奈良県奈良市山陵町 1500
立山町埋蔵文化財センター・ 立山町郷土資料館	2007.04	富山県中新川郡立山町谷口 43	稲むらの火の館 (濱口梧陵記念館・ 津波防災教育センター)	2007.04	和歌山県有田郡広川町広 671
氷見市潮風ギャラリー	2007.10	富山県氷見市中央町 3-4	松山常次郎記念館	2007.05	和歌山県伊都郡九度山町九度山 1452
金沢金融歴史資料館	2007.08	石川県金沢市南町 5-28	平野勲記念館	2007.10	島根県出雲市大津町 1797 西光寺
作次郎ふるさと記念館	2007.12	石川県羽咋郡志賀町富来領家町甲 10 富来行政センター内	星野仙一記念館	2008.03	岡山県倉敷市中央 1-10-11 ヒルトップビル C 棟 2 階
和倉昭和博物館とおもちゃ館	2007.04	石川県七尾市和倉町九 20-1	棟方志功・柳井道弘記念館 (M & Y 記念館)	2008.02	岡山県津山市東一宮 13-8
輪島市櫛比の庄 禪の里交流館	2007.11	石川県輪島市門前町走出 6-10	尾道市立大学美術館 (旧:尾道白樺美術館[尾道大学])	2007.11	広島県尾道市久保 3-4-11 (※2012 年 4 月に館名変更)
人道の港 敦賀ムゼウム	2008.03	福井県敦賀市金ヶ崎町 44-1	海上自衛隊史料館 てつのくじら館	2007.04	広島県呉市宝町 5-32
福井県平和祈念館	2007.04	福井県鯖江市水落町 1-8-22	戦国の庭 歴史館	2007.08	広島県山県郡北広島町海応寺 255-1
山川登美子記念館	2007.04	福井県小浜市千種 1-10-7	ホロコースト記念館	2007.10	広島県福山市御幸町中津原 815
若狹町歴史文化館	2007.10	福井県三方上中郡若狹町市場 20-17	星野哲郎記念館	2007.07	山口県大島郡周防大島町平野 417-11
河口湖 北原ミュージアム	2008.03	山梨県南都留郡富士河口湖町小立 1204-2	緑と花と彫刻の博物館 (ときわミュージアム)	2007.09	山口県宇部市野中 3-4-29
中村キース・ヘリング美術館	2007.04	山梨県北杜市小淵沢町 10249-7	UBE i - P l a z a	2007.11	山口県宇部市小串 1978-96 宇部興産株式会社 宇部本社 1 階
山梨平和ミュージアム ・石橋湛山記念館・	2007.05	山梨県甲府市朝気 1-1-30	伊丹十三記念館	2007.05	愛媛県松山市東石井 1-6-10
山梨宝石博物館	2007.04	山梨県南都留郡富士河口湖町船津 6713	坂の上の雲ミュージアム	2007.04	愛媛県松山市一番町 3-20
栄村国際絵手紙 タイムカプセル館	2007.07	長野県下水内郡栄村北信 2503	四国鉄道文化館・十河信二記念館・ 観光交流センター (鉄道歴史パーク in SA I J O)	2007.11	愛媛県西条市大町 798-1
信州大学農学部 食と緑の科学資料館 「ゆりの木」	2007.05	長野県上伊那郡南箕輪村 8304	秋月書院蘭雅學舎 岡田武彦記念館	2007.10	福岡県朝倉市日向石上河原 55-1
平出遺跡公園ガイダンス棟	2007.04	長野県塩尻市宗賀 388-2	歌人白蓮想 (柳原白蓮展示館)	2007.12	福岡県飯塚市飯塚 11-20 東町商店街内: 藍 ありまつ
松本市山と自然博物館	2007.05	長野県松本市蟻ヶ崎 2455-1	北九州インベーションギャラリー (産業技術保存継承センター)	2007.04	福岡県北九州市八幡東区東田 2-2-11
山路智恵絵手紙美術館	2007.07	長野県下水内郡栄村北信 2903	ロボスクエア	2007.07	福岡県福岡市早良区百道浜 2-3-2 T N C 放送会館内 2 階
日本国際ポスター美術館	2008.03	岐阜県大垣市北方町 5-50 岐阜経済大学気付	長崎大学医学部 150 周年ミュージアム	2008.02	長崎県長崎市坂本 1-12-4 長崎大学医学部 良順会館 1 F
池田満寿夫記念館	2007.11	静岡県熱海市下多賀 1130-1	西部ガス ヒナタキッズ	2007.07	熊本県荒尾市緑ヶ丘 グリーンランド内
藤枝市文学館	2007.09	静岡県藤枝市若王子 500	大分エコライフプラザ	2007.04	大分県大分市福宗 618 大分市福宗環境センター リサイクルプラザ内
焼津小泉八雲記念館	2007.06	静岡県焼津市三ヶ名 1550	大分香りの博物館	2007.11	大分県別府市北石垣 48-1
岡崎市防災展示コーナー	2007.07	愛知県岡崎市朝日町 3-1 岡崎市役所東庁舎 1 階	昭和の夢町三丁目館	2007.04	大分県豊後高田市新町 989-1 昭和ロマン蔵内
戦争と平和の資料館 ピースあいち	2007.05	愛知県名古屋市中東区よもぎ台 2-820	べっぴん荘野美術館	2008.02	大分県別府市鶴見園町 1 組 -1
デンソーギャラリー	2008.02	愛知県刈谷市昭和町 1-1 デンソー本社 5 号館 3 階	薩摩伝承館	2008.02	鹿児島県指宿市東方 12131-4 指宿白水仙敷地内
依佐美送信所記念館	2007.04	愛知県刈谷市高須町石山 2-1 フローラルガーデンよさみ内	沖縄県立博物館・美術館	2007.11	沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1
吉胡貝塚資料館	2007.11	愛知県田原市吉胡町矢崎 42-4	沖縄平和祈念堂美術館	2008.01	沖縄県糸満市摩文 448-2 平和祈念公園内
相差海女文化資料館	2007.04	三重県鳥羽市相差町 1240-1			
大山玉宝美術館	2007.10	三重県志摩市志摩町越賀 大山広苑			
小谷城戦国歴史資料館	2007.10	滋賀県長浜市小谷郡上町 139			
千僧供地域歴史資料館	2007.07	滋賀県近江八幡市千僧供町 1090			

● 2008 年度開設博物館（2008 年 4 月～2009 年 3 月）

館 園 名	開設年月	所 在 地
洞爺湖芸術館	2008.04	北海道虻田郡洞爺湖町洞爺町 96
沼田町化石体験館	2008.07	北海道雨竜郡沼田町幌新 381-1
室蘭市民美術館	2008.10	北海道室蘭市幸町 6-23 室蘭市文化センター地階
紋別市立博物館まちなか芸術館	2008.05	北海道紋別市幸町 3-1-12
十和田市現代美術館	2008.04	青森県十和田市西二番町 10-9
岩泉町歴史民俗資料館	2008.04	岩手県下閉伊郡岩泉町門町向 9-1
奥州宇宙遊学館	2008.04	岩手県奥州市水沢区星が丘町 2-12
観光交流センター 風の館	2008.04	岩手県久慈市中町 2-5-6 道の駅・くじ やませ土風館
昭和の思い出博物館 レトロ館	2008.04	岩手県久慈市中町 2-5-1 道の駅・くじ やませ土風館（土の館 2 階）
深澤晟雄資料館	2008.10	岩手県和賀郡西和賀町沢内太田 2-68
仙台市天文台	2008.07	宮城県仙台市青葉区錦ヶ丘 9-29-32
寒河江市美術館	2008.11	山形県寒河江市本町 2-8-3 フローラ・SAGAE(中心市街地活性化センター)
酒田・竹久夢二美術館	2008.05	山形県酒田市日吉町 1 舞娘坂
日本さきの文化美術館／ ノスタルジア・ミュージアム	2008.06	福島県郡山市熱海町熱海 5-211
サッポロビール 那須 森のビール園 森のビールづくりジオラマ館	2008.04	栃木県那須郡那須町高久甲 4453-49
芳賀町総合情報館（博物館）	2008.10	栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 1078
国立女性教育会館 女性アーカイブセンター	2008.06	埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
木更津市郷土博物館金のすず	2008.10	千葉県木更津市太田 2-16-2
鈴木真砂女記念館	2008.07	千葉県鴨川市広場 820 鴨川グランドホテル内
桜美林大学 桜美林資料展示室	2008.12	東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学町田キャンパス内 其中館
大田区立尾崎士郎記念館	2008.05	東京都大田区山王 1-36-26
大森 海苔のふるさと館	2008.04	東京都大田区平和の森公園 2-2
オカムラいすの博物館	2009.02	東京都千代田区永田町 2-13-2 オカムラ山王ショールーム内
國學院大学伝統文化 リサーチセンター資料館	2008.10	東京都渋谷区東 4-10-28 國學院大学渋谷キャンパス・学術メディアセンター(AMC)内
国文学研究資料館	2008.04	東京都立川市緑町 10-3
消防団情報プラザ	2009.01	東京都港区虎ノ門 2-9-16 日本消防会館
先端技術館@TEPIA	2008.04	東京都港区北青山 2-8-44
東京おもちゃ美術館	2008.04	東京都新宿区四谷 4-20 四谷ひろば内
目黒区めぐろ歴史資料館	2008.09	東京都目黒区中目黒 3-6-10
リコーフォトギャラリー 「RING CUBE」	2008.10	東京都中央区銀座 5-7-2 三愛ドリームセンター 8F・9F
日本郵船氷川丸	2008.04	神奈川県横浜市中区山下町山下公園地先
長岡戦災資料館	2008.07	新潟県長岡市城内町 2-6-17 森山ビル
ふれあい昆虫館	2008.07	新潟県上越市安塚区須川 4820 雪だるま高原（キュービットバレイセンターハウス隣り）
石川四高記念館	2008.04	石川県金沢市広坂 2-2-5
エルガイアおい	2008.07	福井県大飯郡おい町成海 1-2 うみんびあ大飯内
敦賀鉄道資料館	2009.03	福井県敦賀市港町 1-25
福井県子ども家族館	2008.08	福井県大飯郡おい町成海 1-1-1 うみんびあ大飯内
韭崎市立韭崎大村美術館	2008.10	山梨県韭崎市神山町鍋山 1830-1
山梨市根津記念館	2008.10	山梨県山梨市正徳寺 296
伊東近代美術館	2008.05	長野県諏訪市諏訪 2-4-6
城田孝一郎彫刻芸術資料館	2008.11	長野県下伊那郡阿南町南條 71-2
戸隠地質化石博物館	2008.07	長野県長野市戸隠栃原 3400
長野県赤十字歴史資料館	2008.04	長野県長野市南県町 1074 日本赤十字社長野県支部
にしざわ貯金箱かん	2008.04	長野県千曲市上山田温泉 3-10-5
西丸震哉記念館	2008.04	長野県大町市市 10901
各務原市歴史民俗資料館	2008.04	岐阜県各務原市鷺沼西町 1-116-3 中山道鷺沼宿町屋館内

伊豆急行の小さな資料館 「ONE TWO NINE（ワンツースタイン）」	2009.01	静岡県伊東市八幡野 1183 伊豆高原駅やまもプラザ内
静岡平和資料センター	2008.06	静岡県静岡市葵区伝馬町 10-25 中央ビル'90 2 階
横井照子富士美術館	2008.11	静岡県富士市中野 464
岡崎市図書館交流プラザ （岡崎むかし館）	2008.11	愛知県岡崎市康生通西 4-71
岡崎市図書館交流プラザ （内田修ジャズコレクション展示室）	2008.11	愛知県岡崎市康生通西 4-71
こども未来館「ここにこ」	2008.07	愛知県豊橋市松葉町 3-1
花まつりの館	2008.06	愛知県北設楽郡東栄町御園坂場 旧御園小学校跡
碧南市藤井達吉現代美術館	2008.04	愛知県碧南市音羽町 1-1
マフラーミュージアム	2009.01	愛知県名古屋市中熱田区六野 1-3-1
アートミュージアム高森	2008.07	滋賀県栗東市安養寺 8-7-4
木下美術館	2008.08	滋賀県大津市比叡平 2-28-21
彦根市開国記念館	2008.10	滋賀県彦根市金亀町 3-2
京都嵐山 美空ひばり座	2008.04	京都府京都市右京区 嵯峨天龍寺すずきの馬場町 3-25
寿恵更紗ミュージアム	2008.11	京都府向日市寺戸町寺山 12-1 日本燦クラブ会館 2 階
中信美術館	2009.02	京都府京都市上京区 下立売通油小路東入西大路町 136-3
三宅八幡宮 絵馬展示資料館	2008.05	京都府京都市左京区上高野三宅町
東大阪市消防局 防災学習センター	2008.05	大阪府東大阪市稲葉 1-1-9
まほうびん記念館	2008.05	大阪府大阪市北区天満 1-20-5 象印マホービン株式会社 本社 1F
尼崎市立文化財収蔵庫	2009.01	兵庫県尼崎市南城内 10-2
上郡町郷土資料館	2008.04	兵庫県赤穂郡上郡町上郡 500-5 上郡町役場第 3 庁舎 2 階
清荒神清澄寺史料館	2008.11	兵庫県宝塚市米谷清シ 1
神戸パールミュージアム	2008.06	兵庫県神戸市中央区東町 122 日本真珠会館 1F
三木美術館	2008.06	兵庫県姫路市本町 241
湯浅おもちゃ博物館	2009.02	和歌山県有田郡湯浅町 557
石見銀山世界遺産センター	2008.10	島根県大田市大森町イ 1597-3
シジミ展示館	2009.01	島根県松江市千鳥町 36
岡山・吉兆庵美術館	2008.10	岡山県岡山市南区築港新町 1-24-21
Wood Egg お好み焼館 （おこのミュージアム）	2008.06	広島県広島市西区商工センター 7-4-5
府中家具木工資料館	2008.10	広島県府中市中須町 1650-1 府中家具協同会館 1 階
本因坊秀策囲碁記念館	2008.09	広島県尾道市因島外浦町 121-1
岩国市科学センター	2009.01	山口県岩国市麻里布町 6-14-25
ふるさと山口文学ギャラリー	2008.04	山口県山口市後河原 150-1 山口県立山口図書館内
防府市文化財郷土資料館	2008.04	山口県防府市桑山 2-1-1
やまぎん史料館	2008.11	山口県下関市観音崎町 10-6
香川大学博物館	2008.04	香川県高松市幸町 1-1
ジョージ ナカシマ記念館	2008.11	香川県高松市牟礼町大町 1132-1
平賀源内記念館	2009.03	香川県さぬき市志度 587-1
中村美術館	2008.04	福岡県田川市弓削田関の山 3782-1
五島市笠松宏有記念館	2008.07	長崎県五島市奈留町船廻 937-1
長崎純心大学博物館	2008.05	長崎県長崎市三ツ山町 235
熊本城本丸御殿大広間	2008.04	熊本県熊本市古京町 1-1
松中信彦スポーツミュージアム	2009.01	熊本県八代市上日置町 4459-1
大友氏遺跡体験学習館	2008.04	大分県大分市大分 4257
中村道雄 組み木絵美術館	2008.04	大分県玖珠郡九重町田野 美術館通り
小丸川発電所展示館 「ピノックパーク」	2008.07	宮崎県児湯郡木城町石河内大平 1246-14
かごしま環境未来館	2008.10	鹿児島県鹿児島市城西 2-1-5
本坊酒造 薩摩郷中蔵・ GALLERIA HOMB0	2008.07	鹿児島県鹿児島市南栄 3-27
残波岬灯台 灯台資料展示室	2009.02	沖縄県中頭郡読谷村宇座岬原 1933

特集：2007 年度・2008 年度リニューアル博物館情報

丹青研究所調べによる、2007 年度・2008 年度（2007 年 4 月～2009 年 3 月）にリニューアルを実施した全国の主な博物館数は 263 館です（本報告では、2007 年度と 2008 年度の両年度ともにリニューアルを実施した館は 2 館で集計しています：16 館が該当します）。

ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2007・2008 年度のリニューアル博物館について傾向を示し、都道府県別のリニューアル博物館リストを掲載します。

■ 2007・2008 年度リニューアル博物館の傾向

263 館の内訳は、2007 年度リニューアル博物館 142 館、2008 年度リニューアル博物館 121 館です。

施設・設備の老朽化によるリニューアルをはじめ、新たな機能や役割を果たすために施設や館内設備の改修を実施したケースや、開館後の資料・情報・研究成果の蓄積に基づいた展示の更新、時代に即した展示内容や展示手法に取り組んだ改装、来館者サービスの向上やバリアフリー化への取り組みなど、その内容は様々です。

2007 年度リニューアル博物館には、ふくしま海洋科学館＜アクアマリンふくしま＞（福島県）、土浦市立博物館（茨城県）、国立歴史民俗博物館（千葉県）、DIC川村記念美術館（千葉県）、国立科学博物館（東京都）、富山市科学博物館（富山県）、佐川美術館（滋賀県）、自転車博物館サイクルセンター（大阪府）、兵庫県立歴史博物館、島根県立八雲立つ風土記の丘などが見られます（後掲の「2007 年度リニューアル博物館一覧表」をご参照ください）。

一方、2008 年度リニューアル博物館には、旭川市博物館（北海道）、ハラミュージアムアーク（群馬県）、府中市郷土の森博物館（東京都）、石川四高記念文化交流館＜石川近代文学館・石川四高記念館＞（石川県）、石川県立美術館、山梨県立美術館、宇治市源氏物語ミュージアム（京都府）、大阪市立科学館（大阪府）、竹中大工道具館（兵庫県）、香川県立ミュージアムなどが見られました（後掲の「2008 年度リニューアル博物館一覧表」をご参照ください）。

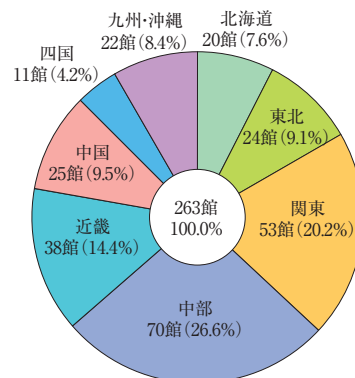
各館のリニューアル内容については、後掲の一覧表に記載しています。一覧表を見ると、多くの館が記念事業や周年事業を契機にこうしたリニューアル事業に取り組んでいることがわかります。中には、開館して数十年が経過して初めてのリニューアルに取り組んでいる館も見られます。また、動物園・水族館・科学館に見られるように、園内・館内のコーナーごとにリニューアルに取り組んでいるケースや、国立の博物館や公立の地域博物館に見られるように、複数年に及ぶ段階的なリニューアルに取り組んでいるケースを確認することができます。

前回 2006 年度調査報告を行った際にも指摘しましたように、新設の博物館の数が少なくなっている一方で、こうしたリニューアルに取り組む博物館は多くなっています。

■ 地方別に見たリニューアルの傾向

新設の博物館と同様、中部、関東、近畿が多いことがわかります。この3つの地方を合わせると、全体の6割以上に達します。中部、関東は 50 館を超えました。なお、今回の調査では、奈良県の博物館におけるリニューアル状況を確認することはできませんでした。

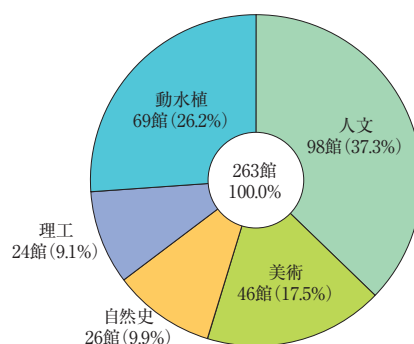
＜図－1＞地方別リニューアル博物館数の比率



■ 館種別に見たリニューアルの傾向

全国に施設数の多い「人文」が、ここでも全体の3分の1以上を占めています。次に、「動水植」が多く、全体の4分の1以上を示しています。後掲の一覧表を見てもわかるように、全国の動物園・水族館で多くのリニューアルが行われています。特に、各地の動物園では、中長期のリニューアル計画に沿って取り組んでいるため、こうした傾向は今後も続くものと考えます。

＜図－2＞館種別リニューアル博物館数の比率

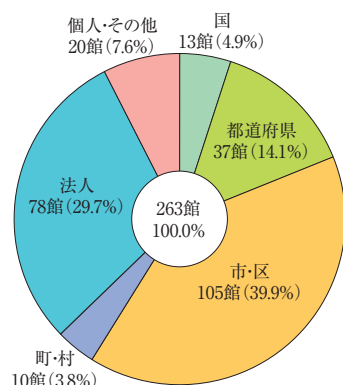


■ 設立主体別に見たリニューアルの傾向

新設の博物館では、「法人」が最も多かったのですが、リニューアルでは「市・区」が最も多く、100 館を超える確認ができました。これは全体の約4割に該当します。公立博物館の多い我が国ですので、建物の老朽化対策や設備の更新などが必要な施設が各地に多く存在していることが推察できます。なお、次いで「法人」が多く見られ、全体の約3割を示しています。新設の博物館に関する報告で述べたように

「法人」を設立主体とする企業博物館や大学博物館などの取り組みがこうした傾向につながっていると考えます。

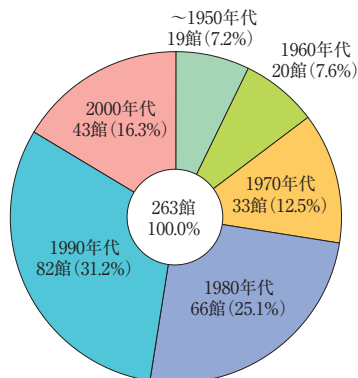
＜図－３＞設立主体別リニューアル博物館数の比率



■開館年代別に見たリニューアルの傾向

開館して10年以上が経過した「1990年代」開館の博物館が最も多く、全体の3割以上を占めています。開館して10年を経過した頃からリニューアルに取り組み始めていると捉えることもできるのではないかと考えます。次いで、開館20年以上の「1980年代」の博物館、まだ開館して10年に満たない「2000年代」の博物館の順となりました。

＜図－４＞開館年別リニューアル博物館数の比率



■リニューアルの形態について

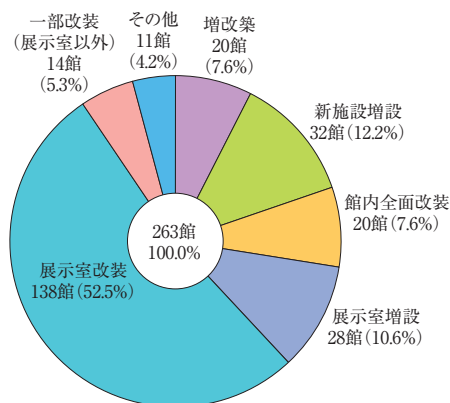
各館のリニューアル内容をもとに、「増改築」「新施設増設」「館内全面改装」「展示室増設」「展示室改装」「一部改装（展示室以外）」「その他」に分けて分析を試みました。なお、同一年度内に複数のリニューアル（取り組み）を実施した館については、主要な内容を基に振り分けています。

集計した結果、「展示室改装」が最も多く、全体の半数以上を占めました。他の区分は、ほぼ近い数値であるため、リニューアルの大半が展示の改装に関するものと捉えることができます。前回2006年度調査報告の内容と比べると、「増改築」の件数が増えていることが目につきました。「新施設増設」や「館内全面改装」を含めた大規模なリニューアル事業に取り組む館が、徐々に増えてきているのではないかと考えます。

動物園では、敷地内に新たな施設を整備するケースが多く見られました。このような事例は「新施設増設」に含めました。

なお、「一部改装（展示室以外）」には、情報コーナーや多目的スペース、イベントスペース、ミュージアムショップ、カフェ・レストランなどの改装に関する事例を含めました。また、「その他」には、附属施設に位置づけている歴史的建造物の改修や空調などの設備改修、施設の補強に関する事例を含めています。

＜図－５＞リニューアルの形態の比率



■入館者数の推移について

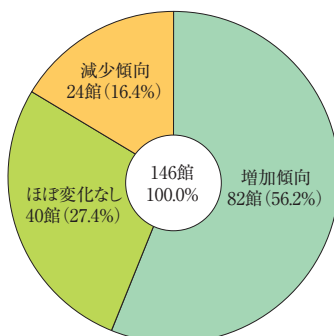
今回の調査では、リニューアル実施前と実施後の入館者数の推移について、「増加傾向」「ほぼ変化なし」「減少傾向」の選択肢を設けて回答していただきました。

集計した結果、「増加傾向」の館が56.2%を占めました。リニューアルは、入館者数の増加に一定の効果を示していると考えます。

また、今回の調査では、リニューアル実施年度と実施前後（の年度）の入館者数についても回答していただきました。リニューアル実施年度の回答（有効データ数：159館）をもとに集計すると、年間入館者数10万人以上を数える館が全体の6割以上（98館：61.6%）を示しました（リニューアル実施後の年度の回答で集計すると105館：65.3%）。P6に掲載した新設の博物館の傾向と比較した場合、顕著な違いが見られます。

リニューアル博物館は、近年新設されている博物館に比べて入館者数の多い施設であることがわかります。こうした数値の違いは、現在、各地の主要な博物館がリニューアルに取り組んでいるためと考えます。国内の博物館は、「新設の時代」から、「リニューアルの時代」に移行したことを今回の調査結果から感じ取りました。

＜図－６＞リニューアルに伴う入館者数推移の比率



2007・2008 年度リニューアル博物館一覧表

● 2007 年度リニューアル博物館（2007 年 4 月～2008 年 3 月）

旭川市旭山動物園 〔北海道旭川市〕2007.12
新施設「レッサーパンダの吊り橋」がオープン。獣舎内外の二本の木に高さ 3.5m、長さ 13m の吊り橋を架け、レッサーパンダの木に登る姿や絶妙なバランスで木の幹で寝る姿など、レッサーパンダの能力を引き出した施設を整備。施設は 2 つに分かれ、吊り橋側と周辺で観察できる窓タイプの場所を設置し、どちらもレッサーパンダを細かに観察することが可能
歌志内市郷土館 （ゆめつむぎ）〔北海道歌志内市〕2007.10
体験型展示装置「なるほど 坑内まっくら体験室」が開設。同館の支援組織「ゆめつむぎ通信員」の元炭鉱員が製作。同体験室は幅 1.4m、長さ 3.6m、高さ 1.8m。入口の暗幕をくぐると真っ暗な中を手探りで進み、採炭現場の暗闇を疑似体験できる
帯広市おびひろ動物園 〔北海道帯広市〕2007.04
「植村直己記念館・雪雪の家」をリニューアルオープン。世界的な冒険家・植村直己と実際に冒険をしたエスキモー犬（剥製）やソリ、寝袋などを展示する記念館を十数年ぶりに改装。OB や職員などで館内の壁を塗り替え、倉庫で眠っていた写真パネルに掛け替えを行うなど、冒険の様子を紹介
釧路市湿原展望台 〔北海道釧路市〕2007.04
集客力アップを図るため、「湿原を理解する案内拠点」としての役割強化を打ち出し、展示内容を一新。「水の大地」釧路湿原を再現したジオラマ、過去に釧路湿原で捕獲された幻の魚と呼ばれるイトウ（体長約 2m）を再現した木彫り模型、「四季の湿原」やライブ映像を見ることができる 65 インチ液晶モニターなどを設置
札幌市水道記念館 〔北海道札幌市〕2007.05
1997 年から休館していた同館が建物内部の全面改修を図り、リニューアルオープン。展示スペースの「アクアミュージアム」と市水道局が所蔵する資料や収蔵品を展示し、水道事業の歴史を紹介する「水道記念室」で構成。川の水が水道水になる過程や市内の配水管の設置状況、世界の水事情などをパネルや遊具などを使ってわかりやすく紹介。遊びながら学べるコーナーも設置。展示以外にも、くつろぐことのできる「サロン」、水に関する図書などを集めた「水の図書館」、小さな子どもを遊ばせることのできる「キッズルーム」などを設置
標茶町郷土館 〔北海道標茶町〕2007.04
釧路集治監（旧刑務所）の展示コーナーが展示内容を充実。同コーナーでは、当時の文書や建築物の一部など資料 16 点、写真 22 点、説明パネル 19 枚が展示。新たに、建築当時の資料をもとに同館学芸員が製作した集治監の 1/100 の模型や点呼の際の確認に使う「四人点検表」など 37 点を展示
登別マリンパークニクス 〔北海道登別市〕2008.03
イルカやアザラシの保護に使っていたプールを改装したマンボウ専用水槽「マンボウ館」がオープン。同水槽は、水量約 100 トン、深さ約 2.7m、広さ約 40 m ² 。水槽は厚さ 9cm のアクリル製。三重県沖などで捕獲されたマンボウ 2 匹を展示
函館市熱帯植物園 〔北海道函館市〕2007.04
2006 年 9 月から休園していた同園がオープン以来初の大規模改修を行いリニューアルオープン。鉄骨部分の耐震強度不足の解消や植物の配置替えなど、刷新を図る。温室内の中央部分に高さ 2.5m の展望台を設置し、温室内を一望することが可能になるように整備。また、同室内の通路にはウッドチップの敷き詰めを実施。屋外には足湯や、温泉泉を利用したぬくもりベンチを設置。約 300 種、3,000 本の熱帯植物を紹介
幕別町ふるさと館 〔北海道幕別町〕2007.04
アイヌ民具や民族の歴史を紹介する常設の新コーナー「アイヌの人々」が開設。町ゆかりの故・安東ウメ子が寄贈した民具を中心とした 60 点が解説パネルとともに展示。ガラスケースの中に原色が美しい装飾品の「タマサイ」、儀礼用の酒器「シントコ」などを展示。解説パネルではアイヌの衣食住や地名の由来などを紹介
むかわ町立穂別博物館 〔北海道むかわ町〕2007.04
化石クリーニングなどの手軽な体験学習ができる「体験コーナー」を新設。同館職員などの手作りでコーナーを設置。約 2m 四方の枠組みに模造紙を貼り、化石が採れる地層や古代の海をイメージ。晴天時は化石クリーニング体験、雨天時は室内で化石レプリカ作りをそれぞれ無料で来館者に提供
八戸市水産科学館 （マリエント）〔青森県八戸市〕2007.12
巨大地震発生メカニズム解明などに期待される（独）海洋研究開発機構の地球深部探査船「ちきゅう」の情報館、「はちのへちきゅう情報館」が同館の一角に開設。「ちきゅう」は 5 万 7,000 トンの世界最大、最新の探査船。情報館では、長さ 2.1m、高さ 1.3m の「ちきゅう」の模型や研究内容のパネルや映像、下北半島沖の海底で採取した岩石などを展示
岩手大学ミュージアム 〔岩手県盛岡市〕2007.10
岩手大学ミュージアム本館第 1 展示室（工学部）の常設展示内容がリニューアル。展示テーマは、工学部教授・堀江皓氏の「岩手大における鑄造技術の研究」。鑄造や鋳鉄に関する用語紹介をはじめ、2006 年に開設した工学部附属鑄造技術研究センターと大学院工学研究科金型・鑄造工学専攻に関するパネルを展示
奥州市牛の博物館 〔岩手県奥州市〕2007.12
世界遺産登録を目指す「白鳥館遺跡」を中心とした平泉の文化遺産を紹介する常設展示コーナーが同館の展望室に開設。展示室から、白鳥館遺跡などを一望することができる。遺跡から発掘された陶磁器など 43 点の实物資料のほか、写真・図や遺跡の立体模型、解説パネルなど、合わせて 70 点を紹介

もぐらんぴあ （久慈地下水族科学館）〔岩手県久慈市〕2008.03
サンゴ礁水槽やカクレクマノミ写真館、ガラルフアの足湯コーナーなどを新設して、リニューアルオープン。サンゴ礁水槽では、ハナガササンゴやディスクコーラル、スミレハナガサダイなど、インドネシアから輸入した南国の美しいサンゴや魚を展示。カクレクマノミ写真館では、巨大な魚の模型内に水泡が出る装置を設置し、模型内に入り水中にいるような写真撮影が可能。同館最大のトンネル水槽では、高出力の青色ライトで水面を照らし、青の洞窟にしているような雰囲気を楽しめるようにイメージを一新 ※「東北地方太平洋沖地震」による被害を受け、閉館中
湯本美術展示館 〔岩手県花巻市〕2007.05
新たに「村上善男湯本期記念室」を設置。第一展示室で行っていた村上善男展（常設）を同室に移し、第一・第二展示室を企画展スペースに変更。館長主催の「湯本美術教室」のデッサン室や作業場も確保し、従来以上に展示と教育機能の充実を図る
マリニバル女川 〔宮城県女川町〕2007.04
開館以来初となる大規模リニューアルを実施。入館者の減少傾向に歯止めをかけるため、展示内容を大幅に見直し、体験学習機能を充実。世界と日本の海底地形図の巨大レリーフ（縦 3.8m、横 8m）、カツオ漁船の操舵室を模した操船体験室、国内外の「鳴り砂」のサンプルを集めたコーナーなどが新たに登場 ※「東北地方太平洋沖地震」による被害を受け、閉館中
秋田県立農業科学館 （サン・アグリ）〔秋田県大仙市〕2007.09
食・農業の体験型展示と秋田県の実業の先端農業技術の紹介などを行う「第二展示室」がリニューアルオープン。そば打ち、もちつき、きりたんぼや豆腐作り、洋ランや草花の実演、体験ができるほか、秋田の米の新品種紹介、研究機関紹介などのコーナーを新設。また、同館の愛称が県民の公募により「サン・アグリ」に決定
秋田市大森山動物園 〔秋田県秋田市〕2007.04
「フラミンゴ舎」がリニューアルオープン。フラミンゴ舎に観覧場と室内展示場を新たに設置。観覧場は地面から 1m 程低く、屋外展示場内のフラミンゴを大きなガラス窓を通してフラミンゴと同じ視線から観察することが可能。室内展示場は 10 m ² で、寒さに弱いフラミンゴを冬季閉園中も観察できるように新設
小坂町立総合博物館郷土館 〔秋田県小坂町〕2007.04
小坂町出身で法科学の国内第一人者・長井辰男氏の展示コーナーが常設展示の一角に開設。「日本の法科学の先駆者・長井辰男博士の業績」をテーマに、長井氏から寄贈された賞状や勲章など約 150 点のうち、約 25 点を展示。新聞記事のコピーや写真パネルも紹介
米沢市上杉博物館 〔山形県米沢市〕2008.01
米沢藩の知将・直江兼統の生涯を紹介する新コーナーが常設展示室内にオープン。上杉博物館所蔵の国宝「上杉家文書」などから、兼統に関する書状を紹介。定期的に内容を更新し、その一生を追う
塩屋埴灯台資料展示室 〔福島県いわき市〕2008.02
灯台の歴史や仕組みを紹介する同資料室がリニューアルオープン。第 4 等閃光レンズが設置され、ボタンを押すと回転、点灯する。太陽・風力・波力などの自然エネルギーを活用しているエコ灯台の模型をペダルやポンプを使って発光させ、仕組みを学ぶコーナーを設置 ※「東北地方太平洋沖地震」による被害を受け、休館中
ふくしま海洋科学館 （アクアマリンふくしま）〔福島県いわき市〕2007.04・2007.07
2007 年 4 月、敷地内に造成が進められていた海水域のタッチプール「蛇の目ビーチ」がオープン。福島県が整備を進めている子ども体験館「アクアマリンえっく」の屋外展示場で、県内の海水域の水辺環境（砂浜、磯、干潟）を再現 ※「東北地方太平洋沖地震」による被害を受け、復旧工事のためビーチは閉鎖中 2007 年 7 月、同館 3 階の「オセアニックギャラリー」をリニューアルオープン。展示物の充実を図るために改修を実施し、「いわきの水産情報」「ザ・シーラカンス」「地球温暖化」など、6 つのコーナーを新設。「ザ・シーラカンス」では、これまでの研究の経過や成果を紹介。インドネシアで撮影に成功した最新情報や、撮影に成功したシーラカンス全 7 個体の映像がモニターで放映
諸橋近代美術館 〔福島県北塩原村〕2007.04
2006 年秋から改装工事のために休館していた同館がリニューアルオープン。施設の内外装や展示室などの改装工事を行い、作品の鑑賞により適した施設整備を図る
つくばエキスポセンター 〔茨城県つくば市〕2007.04
「科学者のしごと」をテーマにした新しい展示コーナーが開設。筑波研究学園都市などにある研究機関が協力。展示は科学者の発想法を紹介する導入部、研究現場を体験する展開部、自分で調べる発展部などで構成。実際の研究をモデルにしたシミュレーションゲームなどから科学者の仕事を体験
土浦市立博物館 〔茨城県土浦市〕2007.07
展示内容や体験学習スペースの充実を図り、リニューアルオープン。土浦藩や霞ヶ浦に関するものなど、開館から約 19 年の間に収集した資料の展示環境を向上させ、調査研究の進展に応じた最新情報の発信を目的に改装。1 階には「大名土屋家の文化」展示室を新設。2 階展示室は「霞ヶ浦に育まれた人々の暮らし」をメインテーマに随時展示替えを行いながら土浦の歴史と文化をより詳しく紹介。2 階展示ホールには体験型展示スペースを設置
栃木県立日光自然博物館 〔栃木県日光市〕2008.03
2階展示室を全面改装し、リニューアルオープン。「悠久の自然・たいけん はっけん奥日光」をテーマに、奥日光の成り立ちやラムサール条約登録湿地、現在の植生、希少動物などを紹介。また、外国語表記や音声ガイドを充実させ、直に触れる動物の剥製や周辺に広がる自然の風景などを五感を使って体験

とっとりくあーとびあ日光〔栃木県日光市〕2007.06
開館 10 周年を記念して展示内容をリニューアル。来館者が大口を開いた龍にのみ込まれそうに見えるトリックアート「龍の口」などが目玉。平面に描かれたものが立体的に見える彫刻など、さまざまなトリックアートを紹介
伊香保おもちゃと人形自動車博物館〔群馬県吉岡町〕2007.12
「昭和スターロマン館」が新たに開設。1980 年代を中心に活躍したアイドルたちのコレクションを展示する施設。田原俊彦や中森明葉といったアイドルのレコードジャケット 800 枚と、キャンディーズ、ピンクレディーなどのポスター 200 枚を展示。当時使われていたジュークボックスも設置し、アイドルのレコードを当時の音で再現
藍染ふる里資料館〔埼玉県羽生市〕2007.04
古文書などの常設展示を加えてリニューアルオープン。藍染めの歴史を時系列で追ったコーナーを設置。藍染め作品や染め方の解説、はた織り機など計約 300 点の資料を公開。中国の民俗衣装などを加え、藍文化の歴史も表現
埼玉県立自然の博物館〔埼玉県長瀬町〕2008.02
開館以来初の「展示室」の大規模リニューアルを実施。登録標本だけでなく 14 万点ある所蔵資料を積極的に展示公開するために実施。1 階では新たに地元・長瀬の地質コーナーを設置。名勝・天然記念物「長瀬」の地質現象などの見どころを紹介するほか、荒川の石の展示や、さまざまな化石から古代の秩父を紹介。2 階展示室では、イモリやヤマナなどの希少な生き物やトンボ、バッタ、チョウなどの身近な昆虫を展示解説。鳥の剥製を見ながら、鳴き声を聞くことができるコーナーも設置
埼玉県立歴史と民俗の博物館〔埼玉県さいたま市〕2007.04・2008.02
2007 年 4 月、「ゆめ・体験ひろば」がオープン。縄文時代から明治時代までの衣装を自由に試着できる「自由自在座」、地場産業の铸物や藍染めの体験コーナーなどがある「ものづくり工房」、昭和 30 年代を想定した「昭和の原っぱ」の 3 つのエリアで構成。「昭和の原っぱ」ではベーゴマ、メンコ、けん玉、お手玉などで遊ぶことも可能。2008 年 2 月、「民俗展示室」が全面リニューアルオープン。「一年を生きるー埼玉の祭りと行事ー」をテーマに、埼玉県南部に残るオビシヤ（弓打ち）や川越市に伝わるほろ祭りなど、約 20 の祭りや伝統行事に使用される実物の道具などを展示
狭山市立智光山公園こども動物園〔埼玉県狭山市〕2007.08
「サル山」を一部改修し、リニューアルオープン。従来から設けられていた二重の柵から、来園者側の外柵を取り外し、ガラス張りに替えた。約 30cm の距離で、ニホンザルをより近間に観察することが可能
東武動物公園〔埼玉県宮代町〕2007.11
日本固有の動物だけを集めた新展示施設「日本産動物舎」がオープン。日本産動物舎は「湿原」と「里山」の 2 つのエリアで構成。ホンドギツネやホンドテン、ホンドリスのほか、タンチョウ、ホンドフクロウ、ホンシユウジカ、ホンドタヌキの計 7 種を展示。湿原エリアは、銅路湿原をイメージして整備
所沢航空発祥記念館〔埼玉県所沢市〕2007.09
世界に 1 機だけ現存する「中島九一式戦闘機（胴体部）」（長さ 7m）を新たに常設展示。胴体の塗装の一部がはがれ、木製羽布張りの垂直尾翼も破損したままの姿で展示。九一式戦闘機は第二次世界大戦で旧日本陸軍が使用した主力戦闘機。従来は同館格納庫に収蔵し、年に数日公開してきたが、常設を希望する要望に応え、実現
本庄市埴保一記念館〔埼玉県本庄市〕2007.09
江戸時代の盲目の国学者・埴保己一の功績を紹介する記念館がリニューアルオープン。学習室の新設や展示解説をわかりやすくしたほか、視覚障害の利用者のために点字の解説を充実
国立歴史民俗博物館〔千葉県佐倉市〕2008.03
「第 3 展示室」がリニューアルオープン。主に「江戸時代」にスポットをあて、近世日本（16 世紀末～19 世紀半ば）の多様性を新たな視点で交えて紹介。「江戸図屏風」などの絵図や衣装、模型など 500 点を展示。近世日本で作られた世界図や伊能忠敬の日本図なども紹介。寺子屋のテキストや古文書、すごろくを楽しめる体験コーナーも設置
昭和ロマン館〔千葉県松戸市〕2007.04
2000 年に開館した同館が規模を拡大してリニューアルオープン。特定非営利活動法人（NPO 法人）「出版美術文化振興会」が運営する同館は、挿絵画家・小松崎茂の作品をメインに、少年少女向けの書籍や挿絵、絵本など膨大な資料を所蔵。新たに「昭和時代を回顧するコーナー」を新設するとともに、年に 3 回の展示替えを実施 ※「東北地方太平洋沖地震」による被害を受け、休館中
DIC 川村記念美術館（旧：川村記念美術館／※2011 年 4 月に館名変更）〔千葉県佐倉市〕2008.03
約 8 か月間の増改築工事を行い、リニューアルオープン。展示面積が約 1.5 倍に増加。増改築工事では、ともにアメリカ人の画家、マーク・ロスコ、バーネット・ニューマンの収蔵品のために特別にデザインされた 2 つの常設展示室を設置。リニューアルは、予想を超える年間 10 万人規模の来館者にも対応できるように整備
葛飾区郷土と天文の博物館〔東京都葛飾区〕2007.04
「昭和 30 年代の展示コーナー」がリニューアルオープン。昭和の暮らしぶりが体験できるように改築を実施。戦後の葛飾の花形産業だったボルト・ナット工場と昭和 30 年代の住居が再現され、以前の見だけの展示から、建物の中に入り、当時の雰囲気味わったり、展示物に触れることができるように整備
建設技術歴史展示室〔東京都江東区〕2007.10
展示スペースを従来の 1.5 倍に広げ、新テーマ展示「コンクリート建造物の歴史と発展」を新設してリニューアルオープン。追加展示したのは、明治期に西欧から日本に技術導入したコンクリート材料や工法の技術開発と変遷。技術の国産化や日本独自の発展にスポットを当てた。鉄筋の実物や、実物大模型、大正時代の技術の復元モデルなども製作・展示。リニューアルにあわせて、日英 2 カ国語の音声案内システムも用意

国立科学博物館〔東京都台東区〕2007.04
1930 年に建てられた旧本館の内部を改装した「日本館」が開館。2004 年にオープンした新館「地球館」と合わせ、展示面積は約 1 万 1,000 m ² となり、科学館としては国内最大級を誇る。日本館では、「日本列島の自然と私たち」というテーマに沿って、列島の成り立ちと多様な自然、日本人の祖先と生きものたちのかかわりを、約 2,900 点の資料を用いて紹介。首長竜「フタバスズキリュウ」の全身骨格、南極犬「ジロ」や忠犬ハチ公の剥製なども展示。クラシックな外観や構造はそのまま残して展示方法を一新した。建物内部も、ネオルネサンス風の彫刻やステンドグラスなどを残し、建築当時の雰囲気を保っている。また、2007 年に開館 130 周年を迎えることから、新しいシンボルマーク・ロゴも制定した（制作者はグラフィックデザイナーの佐藤卓氏）
東京国立博物館〔東京都台東区〕2007.04・2007.11
2007 年 4 月、「表慶館」が東京国立博物館の全容を紹介するガイダンス施設としてリニューアルオープン。愛称は「みどりのライオン」。創建当初の姿に戻された館内では、1 階に教育普及スペースを新設。同博物館の見どころを紹介する「出会いの間」や参加型体験をメインとする「体験の間」などを整備。2007 年 11 月、バーチャルリアリティー（仮想現実）の技術を使ったシアター「TNM & TOPPAN ミュージアムシアター」が資料館内にオープン。東京国立博物館と凸版印刷（株）が共同で制作したバーチャルリアリティコンテンツを公開するためのシアター。シアターの定員は 30 名。設置されたスクリーンは 240 インチ（幅約 5m、高さ約 3m）。フルハイビジョンの約 4 倍精細な映像を表示。鑑賞時はナビゲーターが解説をしてくれる
八王子市こども科学館（サイエンスドーム八王子）〔東京都八王子市〕2008.03
「デジタルプラネタリウム」がオープン。最新鋭のプラネタリウム機器を導入し、CG の映像で宇宙の様子を表現。ドームへの投影にはプロジェクター 6 台を使い、360 度縦き目のない映像を投影。星空を投影する「光学式」機器も更新され、2 万 9 千個と天の川約 35 万個の計約 38 万個の星を映し出すことが可能
三鷹市山本有三記念館〔東京都三鷹市〕2007.09
作家・山本有三の生誕 120 周年を記念し、展示構成を一新。展示スペースを広げ、来館者アンケートをもとにパネルの解説文や収蔵品を時系列で見せるなどの工夫を図る。自筆原稿、掲載誌などの展示のほか、書庫を新たに公開して、湯のみ茶碗などゆかりの品などを紹介。有三が過ごした建物（洋館）自体も楽しんでもらえるように工夫
川崎市市民ミュージアム〔神奈川県川崎市〕2007.04
改装により、企画展示室を増設。市民などに貸し出す「ミュージアムギャラリー」を新設したほか、歴史・民俗に関する常設の展示室と「道遙展示空間（ホール状の広場）」を無料にし、中庭と道遙展示空間を結ぶ出入口も新たに設置
三菱みなとみらい技術館〔神奈川県横浜市〕2008.02
新展示ゾーン「環境・エネルギーゾーン」「くらしの発見ゾーン」がオープン。エンターテイメント性豊かな参加・体験型の展示スペースを整備。地球環境問題とその解決方法や、くらしの中の身近なモノに隠された技術を、来館者自身が発見する場となっている。「地球環境問題体感エリア」とそれを取り囲む各種エネルギーの「技術紹介エリア」で構成されている「エコ・エネ LAND」では、ID カードを活用した展示を展開。「みっけ TOWN」では、家やガレージ、店舗やカフェなどの街角を模した空間の中で、リビングでくつろいだり、店で買い物をしたりという日常的な行為を通して、モノづくりの過程や最新技術を知ることができるようになっている
よこはま動物園（ズーラシア）〔神奈川県横浜市〕2007.04
「アフリカの熱帯雨林ゾーン」の一角に新展示「アカカワイノシシ展示場」がオープン。「サブドック」や寝室の一部も新たに公開して、家族 5 頭の様子を近間に観察することが可能。アフリカ原産のアカカワイノシシの動物園での飼育はアジアで同園のみ
横浜・八景島 シーパラダイス〔神奈川県横浜市〕2007.07
「行動・生態展示」に「体験型」を加えた「ふれあいラグーン」がオープン。鯨類ゾーンでは、開放型水槽のガラス壁から水中に手を入れてクジラやイルカと触れ合うことができる。魚類ゾーンには東京湾の砂地や岩礁が再現され、磯遊びをしながらタコやヒトデなどの生態観察が可能
兼統お船ミュージアム（長岡市与板歴史民俗資料館）〔新潟県長岡市〕2008.03
NHK 大河ドラマ「天地人」の放映に備え、主人公の直江兼統コーナーを拡充してリニューアルオープン。甲冑のレプリカや写真パネルなどを展示し、展示数を 3 倍の 30 点に増加
川上善兵衛資料館〔新潟県上越市〕2007.04
川上善兵衛と文豪・森鷗外との交流を紹介する「善兵衛と鷗外」コーナーを新設。鷗外が善兵衛にあてた直筆書簡の写しなどを展示し、「日本のワインの父」と称される善兵衛とは一味違った人物像を紹介
トキ資料展示館（トキの森公園）〔新潟県佐渡市〕2008.03
館の内装と展示内容を新しくしてリニューアルオープン。佐渡トキ保護センターでの人工繁殖やビオトープづくりといった野生復帰の支援活動を紹介する新映像を加えるなど、最近の活動をわかりやすく伝えている。隣接するトキ観察回廊も改修。展示では、1999 年に国内初の人工孵化に成功した「優優」の成長記録やトキ絶滅と保護活動の映像を紹介。観察回廊からは 1 年中、飼育ゲージの観察が可能
金融歴史資料館〔富山県富山市〕2008.02
（株）北陸銀行本店に創業 130 周年記念事業の一環として「金融歴史資料館」が増設オープン。本店営業部ロビーの一角に設けられた資料館は、広さは従来の 2 倍に、展示品は約 100 点に倍増。1943 年に 4 行が統合し、現在の北陸銀行となった際の合併契約書や、東本願寺から寄贈を受けた瓦、棟方志功が手掛けた同行の版画カレンダーなどを新たに展示

高岡市立博物館〔富山県高岡市〕2007.07
常設展示を9年ぶりに一新。世界文化遺産登録を目指す「近世高岡の文化遺産群」のコーナーをはじめ、原始から現代までの高岡の歴史や銅器・漆器などの伝統産業を紹介する約130点の資料を展示
富山県立近代美術館〔富山県富山市〕2008.02
エントランスの改修工事を実施し、リニューアルオープン。ロビーの照明を明るくしたほか、ミュージアムショップの拡充も図る
富山市科学博物館（旧：富山市科学文化センター）〔富山県富山市〕2007.07
1979年に開館した富山市科学文化センターが新たに「富山市科学博物館」としてリニューアルオープン。富山市制90周年を記念して建設された同センターが、常設展示の拡充、バリアフリー化などを目的にリニューアルを実施。富山の自然を中心に据えた展示を図るとともに、2階の常設展示は、2室あった展示室を1つにして、富山の高山から深海に至るまでの動物や生態系の変化などを、ジオラマや動物の剥製などで紹介。ナウマンゾウの骨格標本や模型などをガラス張りの入り口に設置し、夜間はライトアップ。体長6mの動くティラノサウルスをはじめ、同市で採取された恐竜足跡の化石、長さ10mのツチクジラの全身骨格標本などを展示するとともに、同市ゆかりのノーベル賞受賞者である田中耕一氏、利根川進氏の業績紹介や、入善町沖にある世界最古の海底林なども展示
富山市ファミリーパーク〔富山県富山市〕2008.03
里山の見どころを巡る散策路「六せん通り」がオープン。森林整備の様子や初公開となる絶滅危惧種のツシマヤマネコ、在来馬の本曾馬、ニワトリの庭先飼育などを見学することが可能。トラが食事する様子など、9種の行動展示も開始。直営カフェもオープン
氷見市海浜植物園〔富山県氷見市〕2007.04
昆虫館だった場所を中心に改修。「五感で楽しめる体験型のスペース」をコンセプトにリニューアルオープン。国の天然記念物イタセンバラなどの淡水魚を水槽展示したほか、「ふれあい水槽コーナー」を新設。熱帯植物の箱庭ガーデンを設置したり、展示スペースの一部にはギャラリーを整備
ほたるいかミュージアム〔富山県滑川市〕2007.07
常設施設として展望デッキに「海洋深層水足湯」をオープン。約40度に加熱した深層水をかけ流しにしている。屋根付きで広さは19㎡。16人分の浴槽を設置
福井市自然史博物館〔福井県福井市〕2008.03
常設展示室の展示物を入れ替えてリニューアルオープン。新たな展示は「足羽山自然大図鑑」と名付けられ、足羽山の地形・地質、植物、昆虫・動物の3コーナーで、足羽山の岩石をはじめ、生息する動植物を網羅した自然標本1,700点あまりが紹介される。福井県で初めて生息が確認されたタデ科植物3種やベンテンアリガタバナなどのハナ5種、足羽山で採石された笏谷石などの標本も展示。同博物館の常設展示室改修は、1992年4月以来15年ぶり。「みんなでつくる博物館」をコンセプトに、博物ボランティア延べ500人以上が、採取活動から標本づくりを手掛けた
森の中の絵本館〔山梨県山中湖村〕2007.04
2004年以来休館していた「森の中の絵本館」が再オープン。村内のペンション本館に隣接する別棟に開設していた同館が、ペンション本館を改装し、喫茶室や絵本の原画の展示スペースを拡張してオープン。1階には3千冊以上の蔵書があり、喫茶室で自由に読むことができる。2階は絵本の原画の展示スペースを整備。約50種類の絵本やポストカードも販売
信濃デッサン館〔長野県上田市〕2007.07
2007年1月から休館していた「信濃デッサン館」が再オープン。入館者の減少と資金難で休館していたが、2006年6月に休館を発表して以降、全国から寄付金が寄せられ、館内を初めて改修、展示スペースを拡張した。展示作品は、同館では未公開の村山槐多の水彩画や、エゴン・シーレ、ウィリアム・ブレイクの版画を加え、約20点増の84点。別館「槐多庵」も本館と合わせて改修し、2階の展示スペースを拡張
信州昆虫資料館〔長野県青木村〕2007.08
山口県岩国市で農業を営む男性が約40年間描きためた昆虫の水彩画を展示する専用展示室「昆虫画展示室」をオープン。同館の館長が男性に申し出て、トンボ、セミ、バッタなど、多種多様な作品約500点を譲り受けた。展示室では約80点を入れ替えながら展示する予定
須坂市動物園〔長野県須坂市〕2007.04
動物園の写真や標本を展示した、ふれあいの場「ふれんZOO」がオープン。獣舎に設置したカメラで15種類の動物を観察できる「デジタルアニマルパーク体験コーナー」を設置
長野市戸隠そば博物館（とんくるりん）〔長野県長野市〕2007.04
指定管理者制度を導入して運営が長野市から民間企業に切り替わったことに伴い、改装工事を実施。展示室は、戸隠のそばの歴史や神社との関係、健康効果などがまとめわかる内容に変更。2階のそば打ち体験スペースも拡充され、一度に最大200人が楽しめるスペースに変更
ハーマ美術館〔長野県下諏訪町〕2007.04
2009年の開館20周年に向けた第1期工事として改装工事を実施し、リニューアルオープン。多目的スペースを新設したほか、入口階段の拡幅、庭園の刷新などを行い、内外装とも円形を強調した外観に変更
松本市歴史の里〔長野県松本市〕2007.04
約13カ月間の改修を終え、明治時代に建築された裁判所（県宝旧長野地方裁判所松本支部庁舎）や昭和初期に操業していた製糸工場（旧昭和興業製糸場）などを保存する施設がリニューアルオープン。音声案内や体験、実演を充実させ、明治や昭和期の建物内の情景が分かる展示に力を入れている。旧裁判所は、改装によって内部の照明なども明治時代に使用していたものに変更。少女時代の一時期を松本市で過ごし、後に「東洋のマタ・ハリ」と呼ばれた川島芳子の記念室などは同裁判所庁舎の建物から展示・休憩棟に移した

岐阜県世界淡水魚園水族館（アクア・トトぎふ）〔岐阜県各務原市〕2008.03
カピバラの展示コーナーを設置。カピバラは南アメリカ東部のアマゾン川流域に生息する世界最大のネズミの仲間。入館者からの要望もあり、1階のテラスで常設展示を開始。展示しているのは体長約60cm、体重約15kgの1歳のオスとメス。餌やり体験も毎日実施
岐阜県美術館〔岐阜県岐阜市〕2007.06
カフェレストランがリニューアルオープン。岐阜市でカフェレストランを経営する「桂翠館」が出店。店内は白を基調とした落ち着いた雰囲気にて改装。ランチタイムメニューを中心に展開
久々野歴史民俗資料館〔岐阜県高山市〕2007.05
3つの「地域文化コーナー」を新設して、リニューアルオープン。新コーナーは、馬の飼育が盛んだった歴史を紹介する「久々野の馬」、魚釣りなどの道具を見せる「飛騨川のめぐみ」、小屋名しょうけと有道しゃくしの道具やつくり方を展示した「伝統の継承」で構成
三甲美術館〔岐阜県岐阜市〕2007.05
和紙彫塑家・内海清美氏の作品を紹介する「常設展示室」がオープン。2階の和室を改装して、内海氏の「織田信長」の和紙彫塑17点を展示
伊豆・三津シーパラダイス〔静岡県沼津市〕2007.11
「癒しとファンタジー」をテーマにした新水槽が新たにオープン。開業30周年事業の一環。ミズクラゲ500匹を展示する「くらげ万華鏡」、駿河湾に生息するサンゴ「エタミドリイシ」などを展示・育成する「駿河湾再発見水槽」など、4つの水槽を設置。「くらげ万華鏡」は、水族館展示場の一角をクラゲの大水槽と、三枚のガラス張りの壁で囲むような形で設置する
井上靖文学館〔静岡県長泉町〕2007.04
作家・井上靖の生涯100年を記念して、全面改装を実施。代表作「あすなろ物語」にちなみ、大黒柱に青森産のアスナロの木を使用。井上靖の長女・浦城幾世氏から贈られたアルバムの展示や、小説「水壁」のコーナーを整備・拡充。映像コーナーも新設
東海大学海洋科学博物館〔静岡県静岡市〕2007.07
「クラゲギャラリー」や「クマノミ水族館」を新設するなど、常設展示部門のリニューアルを実施。クラゲの生態観察を行うとともに、真っ黒なクマノミとして知られる「マックロキーズアネモネフィッシュ」などを展示。同館は世界で28種確認されているクマノミのうち、18種を飼育
ねむの木こども美術館〔静岡県掛川市〕2007.04
掛川市ねむの木村で建設が進められていた「ねむの木こども美術館 どんぐり」がオープン。肢体不自由児療護施設「ねむの木学園」の園生の絵画150点を常設展示。同館は学園開設40周年を記念して誕生。ねむの木村では二つ目のこども美術館として開館
浜科科学館〔静岡県浜松市〕2008.03
自然のコーナーに実験施設「シマウマのしきはなぜできる?」と顕微鏡を使う「ミクロ観察カウンター」の2つの常設展示がオープン。シマウマの皮膚で同じ性質の細胞が集まり、黒と白に分かれる過程を映像で紹介。ミクロ観察カウンターでは、顕微鏡の使い方を学ぶことができる
富士自然動物公園（富士サファリパーク）〔静岡県裾野市〕2007.07
ふれあいゾーンのどうぶつ村にカバの生態を見学できる新施設「ワンダー・オブ・ヒポ」がオープン。雌のカバ2頭を展示。陸だけでなく、水中を泳ぐように身軽に歩く姿が水槽のガラス越しに観察できる
富士竹類植物園〔静岡県長泉町〕2007.04
世界の竹類を集めて展示・研究している同園に「熱帯温室」が完成。東南アジアや中南米、アフリカなどの熱帯地方に生息するバンブーサ属やメロカンナ属など、12属約100種類を植栽
世界のタイル博物館〔愛知県常滑市〕2007.11
開館10周年を迎えた同館が「体感できる」をテーマに、全面リニューアルオープン。1階の展示は、これまでのタイルの技術史の説明から、エジプト最古のタイル空間を再現するなど、体験型の展示に改装。紀元前からの装飾タイルの歴史と人々の生活文化を紹介。2階部分では、収蔵する約7千点の世界のタイルの一部を紹介
豊橋市自然史博物館〔愛知県豊橋市〕2007.12
1階「郷土の自然」展示室のQ&Aコーナーがリニューアルオープン。老朽化したパソコン3台とソフトを一新。同コーナーは12年ぶりとなる初めての更新
名古屋港水族館〔愛知県名古屋市〕2007.07・2008.03
2007年7月、北館2階の発見コーナーが、新発見コーナー「イルカのABC」にリニューアルオープン。飼育員が毎日2回、「飼育ミニ講座」として約30分解説。飼育の裏側を紹介するミニツアーも開始。2008年3月、「深海コーナー」がリニューアルオープン。同コーナーでは、展示生物の数を増やすとともに、和歌山県で定置網にかかった全長220cmのテンガイハタの標本などを展示
博物館明治村〔愛知県犬山市〕2007.09
明治期の先駆的な郊外型住宅「芝川邸」を移築復元。同邸は商人の芝川又右衛門が隠居用として建設。設計は、明治から昭和期の建築界を主導した武田五一。暖炉やダンスホールなど、洋風を基調としている。孫にあたる現在の当主が寄贈。明治村に新しい建造物が移築復元されたのは13年ぶり
古川美術館〔愛知県名古屋市〕2007.06
日本ヘラルド映画を創設し、有数の資産家として知られた故・古川為三郎の私邸を利用した同館分館の「為三郎記念館」が改装オープン。古川氏が好んだ桜を描いた壁画「季の嵐」（田村能里子氏制作）や琉球畳を使った和室「問閑の間」が新設
伊賀流忍者博物館〔三重県伊賀市〕2008.03
「伝統文化体験施設 忍術ひろば」がオープン。従来の「忍者ステージ」を、課題となっていた雨天対策や地下下の展示室への負担軽減策を講じた全天候型の施設としてオープン。高さ約5mの取り外しができる鉄骨の枠組みに耐火性の高いテント地で可動式の屋根を設けたほか、席数を約30席増やして、最大で200人の収容が可能となる設備に改修

鳥羽みなとまち文学館 [三重県鳥羽市] 2007.11
鳥羽市の風俗研究家・岩田準一郎を改装した文学館に、昭和 30 年代の路地裏をイメージした「小路」が完成。板塀に「ナショナル電球」などと書かれたほうろう看板計 24 枚が展示され、当時の映画のポスター、紙芝居「黄金バット」の自転車などを設置。国土交通省の観光ルネサンス事業の補助を受け、鳥羽商工会議所が整備
佐川美術館 [滋賀県守山市] 2007.09
佐川急便 (株) 創業 50 周年を記念して、「守破離 (しゅはり)」をコンセプトとした「樂吉左衛門館」がオープン。陶芸家の十五代・樂吉左衛門氏自らが設計創案・監修。水庭に埋設された地下展示室と、水庭に浮かぶように建設された茶室の 2 つで構成。地下の展示室には、主に 2000 年以降に作陶された焼貫黒樂茶碗や黒樂茶碗、焼貫茶入、焼貫水指などの作品を展示
長浜市曳山博物館 [滋賀県長浜市] 2007.04
正面 1 階の旧ライブラリー・ＴＶ視聴室を企画展示室に改装して、リニューアルオープン。当画は「受け継がれる職人の技と町衆文化」をテーマに展示を展開する予定。長浜の町の歴史や曳山のルーツなどを新たに紹介
水のめぐみ館 アクア琵琶 [滋賀県大津市] 2007.04
琵琶湖の魚の産卵状況を一週間ごとに地図上に表示していく「お魚たちの産卵調査」コーナーがオープン。琵琶湖や周辺の河川に生ける魚の暮らしぶりを知ってもらおうと、魚類の生息調査を続けている「琵琶湖博物館うおの会」の協力を得て開設。季節ごとに変化する魚種を写真やイラストで紹介し、生まれたての魚も展示。琵琶湖を描いたパネル上に「フナの子発見」「ニゴイが遡上」などのメモを貼り、各地の産卵状況を更新
京都市歴史資料館 [京都府京都市] 2008.03
2006 年 5 月から機器の故障で使えなくなっていた「映像展示室」がリニューアルオープン。視聴ブースを 4 か所から 6 か所に増やし、液晶のワイド画面を導入。新たにコンピュータ・グラフィックスや空撮を使って平安京と現在の京都市街を比較できる映像を作り、英語版も用意
京都大学総合博物館 [京都府京都市] 2007.07
自然史展示コーナーに設置された熱帯雨林の音 (鳥や動物、昆虫の鳴き声、雷鳴など) を再現する「熱帯雨林音響装置」が更新。新装置は 7 台の広帯域用スピーカーを持ち、高周波の音を忠実に再現できるのが特徴。ポルネオ島で録音された音が展示映像に合わせて流される
大阪科学技術館 [大阪府大阪市] 2007.07
電機や機械など、最新技術産業に携わる 22 社 8 団体が出展する大阪科学技術館は最先端の科学技術に触れられるように 2 年に 1 回の改装を実施。27 回目の今回は「知ればもっと楽しくなる、科学技術の不思議」をテーマに新素材や暮らし、地球、情報、エネルギーなどの展示分野を 5 コースに分類して紹介
大阪大学総合学術博物館 [大阪府豊中市] 2007.08
大阪大学の学術標本資料や研究実績を紹介する総合学術博物館「待兼山修学館」がリニューアルオープン。約 166 万点の収蔵資料のうち、キャンパス内から出土した「マチカネワニ」の化石や待兼山古墳から出土した埴輪など 567 点を常設展示。同大学の前身である適塾や、国産第 1 号の電子顕微鏡などの発明品を紹介するほか、研究者にも焦点を当てて学術全般を網羅した内容を展開
キッズプラザ大阪 [大阪府大阪市] 2007.07
開館 10 周年を機に、リニューアルオープン。展示施設が充実した「わいわいスタジオ」は、機材やレイアウトを一新。アナウンサー役、スタッフ役に分かれてニュース番組が作れるほか、映像と人物が同じ画面に映し出されるクロマキー合成などの映像体験ができる。キッズストリートでは、子どもの身長に合わせて縮小された町並みを展開。新たにヘアサロンや病院、交番などが加わり、さまざまな職業体験を提供
交通科学博物館 [大阪府大阪市] 2008.03
2005 年から全 7 室ある展示スペースを順次改装し、今回で計 5 室のリニューアルが完了。タッチパネルで鉄道の安全を支える仕事を紹介する展示を導入したほか、JR や大阪市営地下鉄、阪急電鉄などの歴史や制帽、戦前の切符など、貴重な資料約 300 点を展示するコーナーなどを設置
自転車博物館サイクルセンター [大阪府堺市] 2007.04
1992 年の開館以来初となる改装工事を実施。1 ～ 3 階の展示を改装。自転車の展示だけでなく、自転車に乗ることで得られる健康で環境に優しい生活スタイルを提案。生活に密着した情報をパネル展示などで提供。自転車約 240 台を取めている 1 階の保管庫は一望できるように改装し、初公開。2 階は、5 つの時代区分に沿って歴史的な自転車展示
有馬玩具博物館 [兵庫県神戸市] 2007.10
世界の絵本を読みながらくつろげるカフェ「Book Cafe ALIMALI」がオープン。玄関ホールまでのスペースを利用して、14 席を設置。飲み物を手に絵本を読むことができる。開くと絵が飛び出す仕掛けの本 (ポップアップブック) など、世界の絵本約 150 種類を販売
神戸市立王子動物園 [兵庫県神戸市] 2007.12
カンガルーやダチョウ、ニホンジカなどの大型草食獣 8 種 33 頭を飼育展示する「北園エリア」が 27 年ぶりに全面改修。「動物と来園者の距離感をより近くしよう」と観覧通路を工夫するなど、動物を間近で眺められるように整備。動物の寝室には小窓を設け、強化ガラス越しに動物の姿を観察できるように工夫
神戸市立須磨海浜水族園 [兵庫県神戸市] 2008.01
本館 2 階に「クラゲ専用水槽」2 基が完成。楕円形的水槽では海水が緩やかに回流する仕組みを採用。水槽の背後には LEDなどを設置し、時間が経過すると水槽内の色が赤や緑、青に変わるように工夫
能楽資料館 [兵庫県篠山市] 2008.03
「特別展示室」を新たに開設。同室は中庭に面した約 14 m ² の空間。企画展示のほか、交流のある能面作家などの個展にも利用

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター [兵庫県神戸市] 2008.01
展示資料を拡充し、リニューアルオープン。これまで被災後 5 年分の資料しか展示されていなかったが、その後の復興過程を紹介する新コーナー「復興の道」を開設。住宅倒壊や避難所生活、仮設住宅、住宅再建など、被災地の歩みをたどるジオラマも展示
兵庫県立歴史博物館 [兵庫県姫路市] 2007.04
開館 20 周年を機にまとめた将来構想に基づき、リニューアルオープン。展示方法をこれまでの通史展示から「昔のくらし」「子ども文化」などのテーマ展示に変更。来館者が地域の歴史や文化を学んだり、情報交換することができる「交流博物館」を目指す。子どもから高齢者までの三世代が、ふるさとの歴史・文化を体験しながら学べるようにリニューアルを実施。1 階には、県内の伝統的な民家を再現して十二単などの着付け体験ができる「みんなの家」や、姫路城と城下町の歴史を CG の約 20 分の映像で紹介する「バーチャル歴史工房」などを新設。2 階には、姫路城が眺められる観覧スペースや、江戸時代から昭和のおもちゃ、昭和の駄菓子などを紹介する「こどもはくぶつかん」(同館所蔵の児童教育文化資料「入江コレクション」約 11 万点を活用)を設置。多機能トイレやエレベーターも新設
北淡震災記念公園 野鳥断層保存館 [兵庫県淡路市] 2008.03
施設の老朽化に伴い、改修工事を実施。一部の窓を覆って館内を暗くし、照明 10 基で断層層をライトアップすることで隆起やズレをわかりやすくしたほか、通路のモニターに断層の拡大画像を映し出せるように工夫。また、断層の一部を手で触れるコーナーも新設。非公開だった隣接の倉庫 (メモリアルハウスの倉庫) も改修し、解説パネルや実験キットなどを置いて防災学習の教材として活用
養父市立大庄屋記念館 (旧長島家住宅) [兵庫県養父市] 2007.10
江戸時代の出石藩の大庄屋の建物を保存した同館が展示を一新。農村の暮らしを再現した人形の展示室が新設されたほか、郷土の偉人ゆかりの品々を新たに追加。養父市在住の内海みさ子氏創作の農民人形や、明治時代に京都府知事を務めた北垣国道直筆の扁額なども新たに展示
串本海中公園センター 水族館 [和歌山県串本町] 2007.06
老朽化に伴い、36 年ぶりに館内の全面改装を実施。大水槽がある「串本の海」ゾーンでは壁や床の色調を暗くし、自然採光で水槽内の明るさを際立たせ、「水中トンネル」では床をカーペット敷きにして、反響を抑えるなどの工夫を図る
御坊市歴史民俗資料館 [和歌山県御坊市] 2007.10
約 20 年ぶりに展示内容をリニューアル。弥生時代の環濠集落・堅田遺跡から出土した壺や甕、鉢などの土器、石器を中心に展示。江戸時代の交易で活躍した日高廻船に関する資料も展示。展示資料の解説を大きくするとともに、照明を増やして、明るく見やすい環境に整備
太地町立くじらの博物館 [和歌山県太地町] 2007.12
「海洋水族館 (マリナリウム)」がリニューアルオープン。尾びれ付近に珍しい腹びれのあるバンドウイルカの一一般公開を開始。クジラ類の進化のメカニズムを解明するため、泳ぎなどが観察しやすいトンネル水槽がある海洋水族館に移されることとなり、水温調節装置や濾過槽などの改修を実施
鳥取県立博物館 [鳥取県鳥取市] 2008.03
空調設備の大規模改修のために休館していた同館が、案内表示などを一新してリニューアルオープン。案内表示はイメージカラーのオレンジで統一。受付カウンターの改修も実施
出雲科学館 [島根県出雲市] 2007.07
本館の東隣に「理科学習棟」が完成。1、2 階には実験室や研究室を備え、出雲市内の小中学生の理科学習や実験・工作教室に対応。3 階には直径 6 m のプラネタリウムドームも整備。これまでの 1 日 4 クラスまでの受け入れから、1 日 8 クラスまでの受け入れが可能になり、出雲市内の全ての小・中学生が科学館での理科学習が可能になった
島根県立八雲立つ風土記の丘 [島根県松江市] 2007.07
1972 年に開館した「島根県立八雲立つ風土記の丘資料館」が「島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習棟」としてリニューアルオープン。施設の老朽化が進んだことや、島根県立古代出雲歴史博物館の開館に伴い、役割を新たに再スタート。誰でも快適に利用できるユニバーサルデザインに改修したほか、空調など機械・電気設備を更新。防火設備や照明なども改善、強化。新装された展示室には、古墳時代から奈良時代にかけての出土品や資料約 500 点を展示するとともに、国府周辺の景観を 1/1,000 で再現した縦 3.5 m、横 4.8 m の模型も新たに設置。改装前は、石見地方や隠岐の遺跡からの出土品も展示していたが、改装後は松江市周辺の遺跡からの出土品を中心に展示。また、研修棟を改修・拡張して、周辺の史跡を巡るのに役立つ各種情報を提供するガイダンスルームを新設
岡山県備前陶芸美術館 [岡山県備前市] 2007.04
1 階の企画展示室を充実するため、岡山県重要無形文化財保持者のコーナーを 3 階に移設し、広々とした展示スペースを確保
加計美術館 [岡山県倉敷市] 2007.09
岡山理科大学などを運営する加計学園、高梁学園の創立者・加計勉名誉理事長の足跡を紹介する「加計グループ創立者加計勉記念コーナー」が開設。加計氏が 1955 年に予備校・広島英数学館を開校してから現在に至るまでの歩みをパネルで紹介。米国ライト大学の学位や各国の大学や都市から贈られたメダルなどを展示
備前市歴史民俗資料館 [岡山県備前市] 2007.07
1、2 階の展示室のうち、1 階を中心に改装を実施。備前焼の起源から、戦争との関わりまでを編年的に整理、解説するコーナーや、世界遺産登録運動の盛り上がりで注目されている岡山藩郡代津田武忠の業績を紹介するコーナーを設置
招き猫美術館 [岡山県岡山市] 2007.07
別館「〇庵 (まるあん)」がオープン。招き猫にこだわらない展示をするアートスペースや、講演会・ワークショップの会場として活用。築 75 年の古民家を改装し、本館にないミュージアムカフェも設置

今井政之陶芸の館（光本邸）〔広島県竹原市〕2007.06
館内補強工事を行い、再オープン。江戸時代から残る二階建ての蔵を活用している同館は、柱を補強し、大きく重量のある作品も展示ができるように整備。陶芸家で日本芸術院会員の今井政之氏の作品に加え、今井氏の息子二人の作品も展示し、展示数は計 39 点に増加
美術館あーとあい・さき〔広島県三次市〕2007.10
約1年におよぶ増改築工事を経てリニューアルオープン。美術館に隣接する「吉古歴史民俗資料館」と棟続きにする改修工事の実施に伴い、美術館には「特別展示室」が増設
福山市しんいち歴史民俗博物館・福山市あしな文化財センター〔広島県福山市〕2008.01
福山市北西部の文化財や伝統技術を保存・展示する「福山市あしな文化財センター」がオープン。1階は備後餅の機械・染めの実演や体験コーナー、2階は発掘調査で見つかった土器などを整理・分類する作業場や処置室、3階は出土品の収蔵庫を設置。文化財センター西隣の「福山市しんいち歴史民俗博物館」も同時に改修。1985年のオープン以降、2室だった展示室を3室に増やし、企画展を開催するなど、催しの充実を図る
福山市立動物園〔広島県福山市〕2007.10
新しい「狼舎」が完成。広さは従来の倍以上の約 365 m ² に拡充。寝室や餌の調理室、悪天候時の見学通路も整備。オスのマンドリルが加わり、飼育員の手作り道具がある新狼舎では、9種 25匹の狼の様子を見学できる
頼山陽史跡資料館〔広島県広島市〕2007.06
1995年の開館以来初となる常設展示の全面リニューアルを実施。明治維新にも強い影響を与えた代表作「日本外史」に焦点を当て、「頼山陽と日本外史」のコーナーを中心に、25年の歳月を投じた歴史書の構想から完成までを詳しく解説。木版本 22冊や海外版なども展示
石城の里 三国志城〔山口県光市〕2007.10
三国志城に「神龍石資料館」がオープン。国指定史跡「神籠（こうご）石」は、山丘斜面に高さ約 70 cmの切石を鉢巻き状に配列した古代遺跡。神籠石のこゝを知ってもらいたいと資料館を開設。国指定史跡の9カ所の神籠石を紹介するパネルや、水門に住んでいたとされる山んぼなど、地元の中学生在が石城山にまつわる昔話を調べて制作した壁新聞などを展示
下関市立しものせき水族館（海響館）〔山口県下関市〕2008.03
無料スペースを改装して「企画展示コーナー」を開設。ペンギン施設「ペンギン村」（2010年3月オープン）の建設に伴う改修に合わせて、新たな情報発信コーナーを設置。実験コーナー「オープンラボ」や有料スペースのイベントコーナーの企画展と連動させて運営
周防大島町久賀歴史民俗資料館〔山口県周防大島町〕2007.10
古い民具を使う「体験コーナー」を開設。同館の運営を行う NPO 法人「周防大島自然体感クラブ」が「体験型資料館を目指そう」と、古民具の提供を町民に呼びかけて収集
豊田ホタルの里ミュージアム〔山口県下関市〕2008.03
旧豊田町で見られる貝、化石、昆虫などを標本と解説パネルで調べることができる「豊田の実物図鑑」が開設。貝類約 60 種類、アンモナイトなどの化石約 40 種類、岩石約 60 種類、鉱物約 10 種類、節足動物約 60 種類、昆虫約 1,000 種類などを標本箱で展示。箱を引き出し、標本のほか、一口メモ、標本データなどが書かれたパネルを見ることができ。ルーペやマイクロスコープも配置しているため、拡大して観察することも可能
萩博物館（萩博）〔山口県萩市〕2007.09・2007.11
2007年9月、開館以来初となる「常設展示室」のリニューアルを実施。開館から3年を迎え、それまでの展示や活動の内容を整理するとともに、利用者の満足度を高めることを目的に常設展示を改修。歴史展示を拡充。江戸時代から明治維新までの萩の歴史を順を追って展示。ストーリー性を持たせ、萩ゆかりの人々の写真パネルを展示。展示室は4室から7室に増え、展示スペースは 400 m ² 増えて 1,400 m ² となった。「回廊展示室」も開設。2007年11月、常設展示室「いきもの発見ギャラリー」が新たにオープン。旧情報センターを改装して開設。萩地方の代表的な陸上・海洋の生物標本などに触れたり、体験ができるように工夫を図る。目玉は「深海のモンスター」と呼ばれる全長 3m のダイオウイカ。「リュウグウノツカイ」の剥製や隠れている昆虫を探す参加型コーナーなど、資料約 70 種約 100 点を展示
山口市歴史民俗資料館〔山口県山口市〕2007.04
開館以来初となる、25年ぶりの展示室改装を実施。展示室の展示ケースを配置換えするとともに、展示室中央の大部分を大内文化の紹介に割いたほか、展示室右側には古代からの遺跡発掘物や、左側には明治維新関係の資料を集めた。総展示資料数は約 300 点
大塚国際美術館〔徳島県鳴門市〕2007.04
開館 10 周年記念事業の一環として進められた「システィナ礼拝堂天井画」の再現工事が完了。計約 600 m ² が再現され、これまでの「創世記」に加え、ミケランジェロ「五人の巫女と七人の預言者」「キリストの先祖たち」「イスラエル救済の軌跡の物語」が再現
新屋島水族館〔香川県高松市〕2007.12
ゼニガタザラシの水槽に世界初の水面上に突き出した「回転トンネル水槽」が完成。同水族館を実質的に運営している日ブラ（株）が製造（同館の運営会社「せとうち夢虫博物館（株）」は日ブラ（株）の子会社）。直径 3 m のドーナツ型水槽の中は水で満たされ、アザラシが下から入っていくように整備
伊方ビジャーズハウス〔愛媛県伊方町〕2007.07
四国電力（株）の PR 館が展示内容を一新。実物の 1/6 の大きさの原子炉格納容器やタービン発電機の模型展示、実物大の中央制御室の再現など、発電所内を疑似体験できるほか、クイズやゲームを通してエネルギーと環境について学べる展示ホールに改装
愛媛県立とべ動物園〔愛媛県砥部町〕2007.04
開園 20 年目を迎えた同園に、以前の 5 倍の広さとなる「新レッサーバンダ舎」がオープン。運動スペースが手狭になったため新たに建設。約 115 m ² の広場に各約 4 m ² の休憩小屋 2 棟を設置。ガラス張りにしたほか、暑さ対策として 2 棟とも冷房設備を導入。また、広場の南に 40 m の新広場を設けて、入園者が通る道の上に木製の橋を設置。レッサーバンダが橋を渡る姿も観察できるように整備

高知県立坂本龍馬記念館〔高知県高知市〕2007.09
同館・中岡慎太郎館・高知県立歴史民俗資料館の 3 館合同企画展に合わせて復元された坂本龍馬と中岡慎太郎の襲撃場所「近江屋」の一室を同館に移築し、公開。1867 年の事件当日、現場にいた人物の証言や古写真などを基に再現。血痕が残る屏風や掛け軸のレプリカなども設置。部屋に入って記念撮影も可能
高知県立文学館〔高知県高知市〕2007.07
開館 10 年目を機に、資料の配置や解説パネルなどの装いを新たにするとともに、山本一力氏など、現在活躍中の高知県出身作家のコーナーを新設して、リニューアルオープン。「より親しまれる館づくり」をテーマに、2つの常設展示室と閲覧室を改装。1階には子ども向けの図書が並ぶ部屋も新設
海の中道海洋生態科学館（マリンワールド海の中道）〔福岡県福岡市〕2007.06
プールに入ってイルカと触れ合う「ふれ愛プール」が完成。「プールの中で一緒に遊びたい」という要望に込め、希望者がプールに立てるように水深 3.7m のプールの底をせり上げ、0.5m まで浅くなるように工夫。参加者は胴長を着てプールに入り、イルカを間近で観察したり体に触れることができる
グリーンパーク ひびき動物ワールド〔福岡県北九州市〕2008.03
カンガルーに触れることができる「カンガルー広場」がリニューアルオープン。約 8,500 m ² の同広場には、雨水による大小のくぼみができていたため、子どもや高齢者が転倒する危険性を回避する目的で改修を実施。同広場入口の斜面を約 2.5m 掘り下げて緩やかな勾配になるように整地し、園路の傾斜を取り除くとともに、地下の排水設備も整備
吉野ヶ里歴史公園〔佐賀県吉野ヶ里町〕2008.02
歴代首長の埋葬場所とされる遺構を展示した「北墳丘墓」がオープン。遺構全体はコンクリート建物で覆われ、ひび割れなどを防ぐために薬品処理を行い、空調設備を整備。甕棺は 14 基とも本物の一部を配置。銅剣やガラス製管玉などの出土品は複製品を展示。一般公開は 1991 年度以来、16 年ぶり
雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）〔長崎県島原市〕2007.11
2002 年の開館以来初となる展示の大幅リニューアルを実施。目玉は、火砕流が通った地層の断面をはぎ取った高さ約 2m の標本。噴火前の地面と、噴火が始まった 1990 年から終息する 1995 年の間に噴出した堆積物を見ることができ、解説文と記録映像で当時の様子を確認することができる。災害を体験した農家や住民が、再生への思いや支援に対する感謝のメッセージを伝える「明日へのメッセージ」、復興に向かう人々の言葉を紹介する「希望のプロムナード」も設置
長崎県美術館〔長崎県長崎市〕2007.10
同館のカフェが本格的なフレンチカフェとしてリニューアルオープン。サンドイッチなどの軽食しか調理できなかった厨房を改装し、フードメニューを創設。新しいカフェは、ハウステンボスホテルズ名誉総料理長も務める上祐元勝シェフがプロデュース。長崎県産の食材を使ったスープやカレー、スイーツなどのほか、ワインなどのアルコール類も提供
長崎バイオパーク〔長崎県西海市〕2008.03
オオカンガルーに触ったり、餌をあげることができる「オオカンガルーふれあい広場」がオープン。同広場は、シマウマとキリンの飼育エリアを統合したため、余ったシマウマ用エリアを整備した。北九州市の動物園からきたオス 6 匹、メス 4 匹の計 10 匹が公開
島田美術館〔熊本県熊本市〕2007.10
熊本市都市計画道路建設工事のため、約 2 年半の閉休館していた同館が改装を終えて再オープン。本館には、趣の異なる 3 つのギャラリーを併設。収蔵庫として活用していた蔵もギャラリーに改装。ガラス工芸制作を見学することができる「研究棟」やカフェも新設
佐伯市平和祈念館 やわらぎ〔大分県佐伯市〕2007.04
開館以来初となる本格的な常設展示のリニューアルを実施。展示ケースを増設し、展示内容を再編。豊富な資料や写真を交え、戦時下の市民生活を紹介。映像コーナーでは、戦争を体験した市民にインタビューしたビデオを上映
高田モダン トリックアート「不思議な美術館」〔大分県豊後高田市〕2007.12
国内 16 番目のトリックアート美術館として 2006 年にオープンした同館が、大型作品を中心に全体の 8 割近くの作品を入れ替えてリニューアルオープン。壁を突き破ったようなマンモスの絵、イルカと泳いでいるような写真を撮影できるコーナー、「鏡の部屋」などが新たに設置
鹿児島市立ふるさと考古歴史館〔鹿児島県鹿児島市〕2008.03
開館 10 周年を機に、常設展示のモニターなどを改修。テレビモニター 31 台を液晶画面に変更したほか、縄文時代のジオラマを説明する横 4m、縦 3m の大型スクリーンを新しく設置。入館者に人気がある、自分の顔を画面上で縄文人に加工できる「タイムスリップ縄文人」では、画像を印刷できるように改修
鹿児島市立科学館〔鹿児島県鹿児島市〕2007.04
プラネタリウムをリニューアルオープン。星の数は以前の約 2 万 5,000 個から 400 倍の約 1,000 万個に増加。星雲や星団の形状や大きさがリアルに再現され、肉眼では見えない十二等星まで忠実に再現している。同館は、プラネタリウムの更新に合わせて映像、音声のシステムも一新。映像は静止画から全天に広がる動画になり、ドーム全体に広がる立体的で臨場感ある画像と、迫力の重低音を同時に楽しむことができる。これまでのプラネタリウムは 16 年間使用
かごしま水族館（いおワールド）〔鹿児島県鹿児島市〕2008.03
1階のアクアギャラリーを、水辺の生き物を探したり、触ったりすることができる新たなコーナーに改修。「見るから、探すへ」をテーマに改修を行い、錦江湾の浜辺や農村の小川を再現し、泳ぐ魚を探すと自然を疑似体験することができる施設に整備。広さは 222 m ² 。人工的な波が打ち寄せる海辺の生き物発見コーナーや、フナなどが泳ぐ長さ約 10 m の川の生き物発見コーナーなど、6つのコーナーを設け、約 40 種類 2,000 匹の生き物を展示
沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）〔沖縄県沖縄市〕2007.06
世界各地や沖縄県内に生息するへびを集めた「爬虫類館」が新装開館。老朽化した施設を新築した同館には、オリーブニシキヘビや先島ハブ、リュウキュウヤマガメなど、国内外の 19 種を飼育。準絶滅危惧種のサキシマバイカダも展示。また、爬虫類館と急勾配のワニ園、東ゲートを結ぶ木製の空中園路も新たに設置

● 2008 年度リニューアル博物館（2008 年 4 月～ 2009 年 3 月）

旭川市旭山動物園 [北海道旭川市] 2008.06・2008.09
2008 年 6 月、2 年ぶりとなる大型展示施設「オオカミの森」がオープン。「放飼場」には、木、岩山、小川があり、北米に生息するシンリンオオカミが駆け回り、水遊びをする姿を観察することができる。エゾシカも檻で区切られ飼育。「観察ホール」では、360 度見渡すことができ、ドーム型の観察場所「ヘアーズアイ」では、透明なままほこ型トンネルからオオカミを間近で観察。2008 年 9 月、キリンの体格を参考に作られた潜望鏡型器具「キリン・ペリスコープ」が新たに設置（北海道キリンビレレッジ（株）が寄贈）。キリンの腹の下でハンドルを操作すると、頭部が 360 度回転し、モニター画面で高さ 4m のキリンの目線を楽しめる。視界が広い、モノトーン調のキリンの視覚を再現
旭川市博物館 [北海道旭川市] 2008.11
アイヌ文化に関する展示の充実への要望を受け、2008 年 4 月から休館し、2 フロアの上層階を全面改装。最新の研究成果を基に、アイヌ民族の狩猟や採取、大規模な農耕や交易などを民族衣装、道具、漫画などで紹介。アイヌ以外の北方少数民族の展示も充実。展示室を暗めにし、半透明のカーテンで展示室を仕切るなどの演出も図る。改装は 15 年ぶり。新しい展示では、アイヌ民族の過去と現在、受け継がれる未来を伝える。また、それまでレファレンス活動や利用者の自己学習の場として活用されてきた情報センターは、世代交流可能な体験学習の場「時間迷路 ゆきんぼ」として新たに整備
帯広市おびひろ動物園 [北海道帯広市] 2008.06
「新サル舎」がオープン。ガラス張りを多用し、動物の動きをより間近で観察することができるように整備。チンパンジー、マンドリンのほかに、新たに札幌市円山動物園から加わったコモンスザルが展示
札幌芸術の森 [北海道札幌市] 2008.09
野外美術館に彫刻家・佐藤忠良の作品を集めた「佐藤忠良記念子どもアトリエ」がオープン。粘土や鋳造で作品を制作することができるワークショップ・ルームを備えた体験型の施設。アトリエには、ブロンズ像やデッサンなどの 39 点が並び、このうち 23 点のブロンズ像は触れることができる。施設内には図書コーナーも整備
札幌市円山動物園 [北海道札幌市] 2008.04・2008.07・2009.02
2008 年 4 月、「エゾシカ・オオカミ舎」がオープン。子ども動物園の「ビーバーの森」（旧小動物舎）、「ドサンコの森」（旧鶏舎）もオープン。エゾシカ・オオカミ舎では、北米の森林に住むシンリンオオカミの区画と、エゾシカの区画が 2 階建ての観察所を挟んで整備。シンリンオオカミはガラス越しに観察が可能。ビーバーの森では、プレーリードッグが巣穴で生活する様子を見ることができる。ドサンコの森には、エゾリスと人間を隔てる柵がなく、エゾリスが室内を自由に動き回ることができる。また、改修された「類人猿館」もオープン。2008 年 7 月、環境問題について楽しく学ぶことができる「ネイチャーカフェ・アース」がオープン。北海道コカ・コーラボトリング（株）が札幌市と「札幌市円山動物園における環境協働事業に関する協定」を締結して整備。店内 60 席（そのうちキッズテーブル 12 席）、屋外テラス 12 席を配置。2009 年 2 月、フラミンゴの飼育場とキジ類の飼育施設を改修してリニューアルオープン。改修に伴い、鳥の生態を間近に観察することができる「飼育展示」を開始。フラミンゴが餌を食べる様子やガラス越しにキジを観察することが可能
小さな鉄道博物館 [北海道音更町] 2008.07
開館 5 周年を機に、展示資料を入れ替えリニューアルオープン。目玉として旧国鉄時代に使用された客車の座席を設置し、直接触れて楽しめる展示品を増加。旧国鉄時代に主力の客車だった車両の形式「オハ 62」の 2 人掛けの座席をはじめ、ドアや網棚など、計 20 点を「鋼路臨港鉄道の会」から譲り受け、展示
函館市旧イギリス領事館（開港記念館） [北海道函館市] 2009.03
函館開港 150 周年を記念して旧イギリス領事館の「開港記念館」がオープン。1 階開港記念ホールでは、開港当時の町並みやペリーが来航した航路などを記した「世界大鳥観図」を敷きつめ、2 階の開港記念館は船底をイメージした造りで整備。開港までの歴史や文化を紹介するほか、現在の基坂の風景が明治時代の風景に変わる「タイムスリップフォト」や航海気分が楽しめる「波乗りベンチ」を設置。領事執務室、家族居室も奥まで公開され、写真撮影なども可能
函館市青函連絡船記念館摩周丸 [北海道函館市] 2008.06
青函連絡船記念館として北海道・函館港に保留されている「摩周丸」の内装改修が完了。改修では、グリーン指定席 12 席、普通椅子席 6 席、じゅうたん敷きの普通座席（座敷席）や船内に残されていた荷物置き棚の復元
三浦綾子記念文学館 [北海道旭川市] 2008.06・2008.10
2008 年 6 月、開館 10 周年を機に、リニューアルオープン。「綾子さん自身の言葉で伝える」をキーワードに、パネル類を一新。文字を一回り大きくし、英・韓・中の説明文を追加。「作家の人生」「共に歩んで」などのテーマごとに資料約 600 点を紹介。図書コーナーに設置された大型テレビでは、結婚式やインタビュー映像のほか、テレビドラマの視聴も可能。2008 年 10 月、同館別棟として「収蔵庫」が完成。従来の収蔵庫が手狭となり、開館 10 周年記念事業の中核事業として整備。原稿執筆に使った資料類や書籍、生原稿などを収蔵
むかわ町立穂別博物館 [北海道むかわ町] 2009.03
展示資料の追加やコーナーの新設など、約 17 年ぶりにリニューアルを実施。入口の目玉展示「ロベツアクリュウ」の全身骨格に加え、左後足の実物化石の展示を追加。化石の埋没状況を再現した模型を移設したほか、1977 年の発掘調査の様子などを紹介する写真コーナーを新設
一関市博物館 [岩手県一関市] 2009.03
常設展示コーナー「中尊寺経蔵別当領中世荘園骨寺村」が新設。常設展示室の一面に国史跡指定や重要な文化的景観の選定を受けている骨寺村荘園遺跡の歴史を紹介するコーナーを設置。骨寺村の始まりから終焉を、大型の解説パネル、古文書や絵図、実物原資料、発掘出土品、景観の模型などで紹介。中尊寺と骨寺村の関係を示す最初の文書「中尊寺経蔵別当補任状案」などを展示

えさし郷土文化館 [岩手県奥州市] 2008.04
「新体験棟」がオープン。同棟は木造平屋で、延床面積 130 m ² 。同じ広さの従来の体験棟と併用する。新体験棟は、多くの利用希望者に応えるため、広いスペースを確保し増設。そば打ち、裂き織り、陶芸などの 8 つのメニューに加え、勾玉作りや染め物体験作り、布草履作りなど 5 つのメニューを開発
奥松島縄文村歴史資料館 [宮城県東松島市] 2008.04・2009.03
2008 年 4 月、同館併設の「交流館」が体験学習室や東松島市埋蔵文化財センターの機能を備えた施設としてリニューアルオープン。1 階の体験学習室（旧売店）では、学校単位や一般に開放して土器、勾玉づくりなどの縄文体験が可能。2 階は出土品の遺物整理を行う東松島市埋蔵文化財センターに位置付けている。里浜貝塚などの出土品を整理し、発掘から活用までの一元化を図る。2009 年 3 月、施設の老朽化などに伴い、常設展示スペースと外装を中心に、1992 年の開館以来初となるリニューアルを実施。展示では、等身大の縄文人人形や土器などのレプリカ、イラスト付きパネルを設置。収蔵庫の一部にも展示スペースを設け、これまで展示できなかった遺物の一部、考古学関係の本・資料を展示
仙台文学館 [宮城県仙台市] 2008.10
開館 10 周年を機に、「常設展示室」をリニューアルオープン。物故文学者の業績を中心とする展示から、現役作家をメインとする展示に模様替え。初代館長を務めた作家・井上ひさしの生い立ちから館長時代までの紹介、島崎藤村の愛用の品などをはじめ、熊谷達也、伊坂幸太郎、伊集院静、恩田陸、瀬名秀明など、現役作家の資料などを展示
宮城県美術館 [宮城県仙台市] 2008.10
空調設備工事で休館していた同館がリニューアルオープン。新たに「小企画展」スペースを記念品売り場を開設。空調設備が老朽化し、作品を傷めるリスクがあったため、約 10 カ月かけて最新式の設備に改修
秋田県男鹿水族館（GAO） [秋田県男鹿市] 2009.01・2009.03
2009 年 1 月、「ハタハタ展示コーナー」が内容を充実させてリニューアルオープン。1 カ所からしか観察できなかった水槽の遮光用のブラインドを取り外し、2 カ所から観察することができるように整備。新たに遮光壁を設置し、ハタハタの生育環境に配慮。海藻に付いたブリコや孵化直後の稚魚の成長する過程を 11 の標準で紹介するなど、展示も充実。2009 年 3 月、「ハタハタ展示コーナー」のリニューアル第二弾として、ハタハタの生態や食文化などを紹介する「ハタハタ博物館」にリニューアル。ハタハタの生活史をはじめ、分布図や県沿岸の漁場、産卵場所などのパネルを展示。映像による紹介やハタハタにまつわる問題を開閉式のパネルで説明
仁別森林博物館 [秋田県秋田市] 2008.05
1964 年の開館以来初となる本格的な展示資料の入れ替えを行い、リニューアルオープン。目玉は、旧能代営林署の仁鮎森林鉄道で使用されていたディーゼル機関車。運転席に座ると正面のモニターで森林鉄道の沿線風景を見られるように改造。展示物の説明パネルも一新し、企画展示室には 65 インチの大型モニターを設置
フェライト子ども科学館 [秋田県にかほ市] 2009.03
スクリーンで科学体験を楽しめる大型映像装置「ワンダーボッド」が新設。スクリーンの前に立ち、映像に出てくる雲を手で払いのけると、植物が日差しを浴びて成長するなど、3 つの体験メニューを提供。エントランスホールの天井には、太陽系惑星群を 10 億分の 1 で再現。フェライト（磁性材料）関連の展示も拡充
酒造資料館 東光の酒蔵 [山形県米沢市] 2008.04
「米沢牛の恩人」と呼ばれる英国人チャールズ・ヘンリー・ダラスの功績を紹介する「米沢牛の系譜・ダラス先生資料展示室」がオープン。ダラスを顕彰する「米沢ダラス協会」が企画し開設。ダラスの肖像写真、年譜、米沢牛の系譜と変遷などを 16 点のパネルで紹介
致道博物館 [山形県鶴岡市] 2009.03
展示コーナー「北前船と庄内」を新設。「民具の蔵」の一部を改修し、照明設備を増設するなどして展示スペースを確保。北前船の模型や航海に関する写真パネルなど約 30 点を展示し、庄内に繁栄をもたらした北前船の文化を紹介。やまがた出羽の国「庄内」地域活性化コンソーシアムが、経済産業省の広域・総合観光集客サービス支援事業の採択を受け整備
野口英世記念館 [福島県猪苗代町] 2009.03
新展示室「野口博士の研究室」がオープン。米ロックフェラー医学研究所に勤務していた 38 歳の野口英世の研究室を再現。人体型ロボットが、のどの状況などから分析された「生声」で身ぶり手ぶりを交えながら来館者にメッセージを送る。「なぜ医学者になろうとしたのですか」など、5 つの質問にも回答
国立科学博物館 筑波実験植物園 [茨城県つくば市] 2008.10
開園 25 周年を記念して新区画「生命を支える多様性区」がオープン。食用となる山野草や果樹、建材に使われるヒノキなど、衣食住に利用される植物のほか、文学に登場する植物、科学史上の植物など、生活に欠かせない植物を植栽。バラなどの観賞植物や外国の果樹、薬用植物、地元の筑波山に生息する植物なども展示
常陽史料館 [茨城県水戸市] 2008.04
金融経済に関する資料を公開する常設展示室が「貨幣ギャラリー」と改称してリニューアルオープン。和同開珎や江戸時代の大判、小判から現在流通する貨幣まで約 360 種類の資料（実物）を展示。千両箱の重さ体験、両替商店舗の再現や日本銀行券の偽造防止技術の紹介コーナーも設置
ツムラ漢方記念館 [茨城県阿見町] 2008.05
（株）ツムラの茨城工場内にある同館が全館リニューアルオープン。一部関係者向けに公開していた施設を改装し、一般公開を開始。漢方医学の歴史や生薬標本、国内最古の医学書「医心方」の写しと現代語訳などを展示。生薬に触れる体験コーナーやパソコンによる情報検索コーナー、研修や交流会向けの多目的ホールも設置。工場敷地内の薬草見本園や研究所も併せて見学することが可能

徳川ミュージアム (旧：彰考館 徳川博物館／※ 2011 年 4 月に館名変更) [茨城県水戸市] 2009.02
同館南側の庭園に水戸徳川家ゆかりの茶室「得月亭」を移築公開。「得月亭」は、水戸藩 2 代藩主・光圀が水戸に帰った折に、家臣の忍穂利重の屋敷を訪れ、休んだ小亭。茶室は（その後、失われたため）常陽銀行初代頭取などを務めた故・亀山甚が 1949 年に新築。今回、水戸藩開藩 400 年記念事業の一環として移築整備を図った
日立市かみね動物園 [茨城県日立市] 2008.06
老朽化などから建て替えを進めていた新舎「チンパンジーの森」がオープン。屋内展示室、屋内観察室、寝室、屋外放飼場などを整備。屋外放飼場は「より広く、より高く、より近く」をテーマに従来の約 3 倍に拡大。熱帯雨林地方の樹木をイメージしたタワー型立体遊具などを設置。「わくわくドーム」では、透明なアクリルドームを通して、チンパンジーが水を飲んだり、餌を食べる様子を間近で観察することが可能。雨天時でも屋内展示室でチンパンジーの様子を観察できるように整備
とりっくあーとびあ那須 [栃木県那須町] 2009.03
開館 18 周年を記念してリニューアルオープン。「那須でしか見られない作品」にこだわり、全館作品の約 7 割を改装。遠近法や陰影法などを駆使した新作 60 点以上を展示。各部屋をジェットコースターのレールの絵でつなぎ、終着点には目玉作品の「ウォーターパーク」を公開。写真撮影や作品体験も可能
わくわくグランディ科学ランド (栃木県子ども総合科学館) [栃木県宇都宮市] 2009.03
2008 年 12 月からの改修工事を終え、展示施設「宇宙の科学」「地球の科学」がリニューアルオープン。宇宙の科学内の展示「太陽系惑星競争」では、足踏みゲームで惑星の速度を体感することができる。地球の科学の「栃木ランドスコープ」では、スティック操作で栃木県内上空の映像が現れ、栃木の地形や自然環境を学ぶことができる
太田市立竈塚本町歴史民俗資料館 [群馬県太田市] 2008.06
「上野国新田郡庁跡（天良七堂遺跡）とその周辺遺跡」をテーマに、常設展示の一部リニューアルを実施。新田郡庁跡は 2007 年 5 月に発見された国内最大規模の郡庁跡。周辺の遺跡で発見された群馬県指定重要文化財「唐三彩陶枕」や太田市指定重要文化財「寺井庵寺の瓦」などを展示し、紹介映像も上映
桐生が岡動物園 [群馬県桐生市] 2009.03
開園 55 周年を機に、クモザルの自然な動きを観察することができる「クモザル舎」と「リスザル舎」がオープン。クモザル舎は、池の上部に木をモチーフにした鉄柱を据え付けることで、自然に近い形で動きを見ることができ。寝室や観覧室も隣接して整備。リスザル舎は、正面からだけでなく、裏手にあるリスザルの寝室も観察できるように整備
群馬県生涯学習センター少年科学館 [群馬県前橋市] 2009.01
シミュレータが古くなり、新しく 2 台の「フライトシミュレータ」を導入。操縦桿と左右のペダルで飛行機を操縦し、モニターに映し出される群馬上空を飛行。操縦して、富岡製糸場や尾瀬、群馬県立自然史博物館などの上に表示される雲の輪をくぐると、映像と音声でその場所の解説が流れる仕組み。体験時間は約 8 分
ぐんまこどもの国児童会館 [群馬県太田市] 2009.03
2008 年 7 月から休館していた全天候型プラネタリウム「スペースシアター」の改装が終了し、リニューアルオープン。光学式プラネタリウムとコンピューターグラフィックスで宇宙を再現する最新式動画と音響を備えた施設に一新
ハラ ミュージアム アーク [群馬県渋川市] 2008.07
創立 20 周年記念事業として特別展示室「観海庵」を新設。建築家・磯崎新氏が設計。観海庵は、同館館長の曾祖父で明治時代の実業家・原六郎が収集した「原六郎コレクション」を中心に展示。同コレクションは、円山応挙の「淀川两岸図巻」や狩野永徳らが描いた滋賀・三井寺の旧日光院客殿障壁画、国宝「青磁下蕪花瓶」、重要文化財「縄暖簾図屏風」を含む約 120 点。展示照明には光ファイバーや発光ダイオードを使用し、同コレクションの絵画などが描かれた当時の和ろうそくに近い光を再現。なお、観海庵では、古美術専用ではなく、その空間に見合う現代美術も展示
東武動物公園 [埼玉県宮代町] 2008.10
ホワイトタイガーの水辺での行動をガラス越しに観察することができる新展示場「新ホワイトタイガー舎」がオープン。1 歳になるホワイトタイガーのペアをカナダの動物園から購入。水辺に獲物を追い込んで狩りを行うトラの生態をガラス越しに観察
白浜海洋美術館 [千葉県南房総市] 2008.04
新たに「ギャラリー」を設置。館内の茶室を改装してギャラリーを併設。ギャラリーは無料で入場可能
足立区立郷土博物館 [東京都足立区] 2009.03
農家の模型や 1960 年代の木造都営住宅を再現した部屋など、見て触って楽しめる博物館にリニューアル。肥だめをつくったことのある足立区内の農家の人たちの協力を得て、直径約 110 cm の「肥だめ」の模型を復元。雨よけの屋根や「肥えたご」も忠実に再現
永青文庫 [東京都文京区] 2008.11
敷地内にある細川家 17 代護貞邸の改修工事が終わり、「別館」としてオープン。建物は、吉田五十八の弟子で両国国技館、京都南座、日本美術院などを手がけた建築家・今里隆氏の設計。休憩所が欲しいという来館者の要望を受け、1 階の居間と茶室があったスペース二十畳ほどを一般に公開することにした。室内からは庭や展示品を眺めて休憩することができる。私邸として使われていた別館を新たに開放するのに伴い、細川家 18 代当主で陶芸家として活躍する細川護国元首相と長男・護光氏の作品も新たに公開

科学技術館 [東京都千代田区] 2008.08・2009.03
2008 年 8 月、宇宙空間や細胞内の微細な構造を立体映像で見られるドーム型シアター「シンラドーム」がオープン。直径 10m で立体映像効果を最大限に発揮するため、継ぎ目のない球面状スクリーンを国内で初めて採用。専用眼鏡をかけて鑑賞。約 15 分 4 種の番組を上映。月や渦巻き銀河が形成される様子や、人体の細胞内で遺伝情報をもとにたんぱく質が組み立てられる流れ、人体サイズに大きくした昆虫の構造などを立体映像で見ることができる。2009 年 3 月、展示室「アトミックステーション ジオ・ラボ」がリニューアルオープン。原子力や化石燃料など、地球上にあるさまざまなエネルギーについて紹介。特に原子燃料サイクルの仕組みや、エネルギーと環境問題などに関する解説に重点を置いた。展示室では 1 人に 1 枚バーコードカードが渡され、カードをゲーム機に差し込むと、クイズ形式のゲームがスタートし、全てのゲーム機を巡ると原子燃料サイクルについて学べる仕組みになっている
しながわ水族館 [東京都品川区] 2008.07
クラゲを展示する新コーナー「クラゲたちの世界」がオープン。ミズクラゲ、タコクラゲ、ウリクラゲ、カラージェリーフィッシュの 4 種類、計 200 匹以上を展示。水槽はクラゲと一緒に写真が撮れるように工夫。魚類の新コーナー開設は 7 年ぶり
東京都多摩動物公園 [東京都日野市] 2008.05
開園 50 周年記念事業として、新たな展示群「アジアの沼地ゾーン」がオープン。同ゾーンは計約 2 ha。「ウォークインバードケージ」では、シギやチドリなどの小・中型鳥類を東ケージに、ツルやコウノトリなどの大型鳥類を西ケージに放鳥。見学者はケージ内に設けられた歩道を歩きながら観察することができる。そのほか、放飼場を設けたインドサイ舎や、スイギュウ舎、カワウソ舎などを設置
東京都現代美術館 [東京都江東区] 2009.03
来館者の声を踏まえ、「おもてなし」を充実させる目的で館内のリニューアルを実施。ミュージアムショップをエントランス部分から旧情報コーナー（1 階）へ移設。地下 1 階のレストラン「コントン」では、英国人らのアートユニットが制作した庭を鑑賞することができる。2 階にはアジア・テイストの「カフェ・ハイ」がオープン。1 階にトイレを新設。壁には台湾の人気アーティスト、マイケル・リンが手掛けた壁画を設置
日本科学未来館 [東京都江東区] 2008.10
環境をテーマにした新しい常設展示「地球環境とわたし」がオープン。メインテーマは「循環」。人間が自然の循環システムを破壊している現実を見つめながら、持続可能な社会を作るための最先端の科学技術を、さまざまな仕掛けやアニメーションを使って紹介。人間が地球に及ぼす影響を示した後、石油を使わない循環型社会のイメージ、自然エネルギーの利用、二酸化炭素を出さずにエネルギーを作り出す技術などを展示
府中市郷土の森博物館 [東京都府中市] 2008.04・2009.03
2008 年 4 月、常設展示室に「くらやみ祭」コーナーがオープン。くらやみ祭は、府中市宮町の大國魂神社の例大祭。新コーナーでは、大型ハイビジョン画面で祭りの記録映像を上映するほか、長年使われたみこしや大太鼓を展示。江戸時代の文獻とともに祭りの歴史も紹介。2009 年 3 月、新たに 2 つの常設展示「体験ステーション」「こども歴史街道」がオープン。体験ステーションは、石器のレプリカ、火おこしの道具や戦国時代の兜、着物を展示して、触れることができるように整備。こども歴史街道は、常設展示室の全長 60m の壁面を利用した子ども向けの体験型展示空間。旧石器時代から現代までの府中市の歴史を紹介。実物資料を展示するほか、見て・触れて・聞くことのできるさまざまなアイテムを楽しむことが可能
カサヤの森現代美術館 [神奈川県横須賀市] 2008.04
「新展示棟（新館）」が完成。現代美術を代表する李禹煥氏と故ナム・ジュン・パイクの作品などを展示。展示室入口にはパイクの作品である、破壊されたグランドピアノ（ジャズピアニスト・山下洋輔氏と 1986 年に横浜で開いたコンサートで制作）が設置され、制作過程のビデオも見られる
川崎市市民ミュージアム [神奈川県川崎市] 2008.09
1,800 冊の漫画など、約 8,000 冊を自由に閲覧することができる「ライブラリー」を開設。漫画の収集や漫画文化の研究を行っている同ミュージアムでは、従来の情報コーナーを拡充し、靴を脱いで漫画をゆったりと読むことができるスペースを設置
京急油壺マリンパーク [神奈川県三浦市] 2008.04・2009.03
2008 年 4 月、開館 40 周年記念事業として整備していた大回遊水槽「ドーナツの海」がオープン。水槽には約 40 種 5,000 匹の魚が泳ぐ。円形水槽の内側に立つと 360 度のパノラマで見ることができる。3m 余りのサメ「シロワニ」、2,500 匹のアジやタイなどを放して自然の海を再現。同水槽は、水量 750 トン、外周 78.5 m、奥行 3.5 m、水深 3 m。2009 年 3 月、神奈川県内に生息する希少生物を展示する「みうら自然館」がオープン。22 の展示水槽とともに、屋外にはビオトープを設置。水槽ではイモリやヘイケボタルの幼虫、ニホンアカガエルなど、絶滅の危機に瀕している生物を展示。ビオトープにはドジョウやカワナナなどが生息
富士屋ホテル 史料展示室 [神奈川県箱根町] 2008.07
創業 130 年を記念して、同ホテルの歴史を紹介する「史料展示室」をリニューアルオープン。展示室は従来の 2 倍に拡大。創業時の全景写真や歴代の備品など、写真 50 点と資料 110 点を収蔵。皇室ゆかりの品々や、宿泊した著名人の写真やサイン、宿帳、フランス語のレシビなどが展示
三菱みなとみらい技術館 [神奈川県横浜市] 2009.01
既存の「体験コーナー」の大幅リニューアルを図り、「トライアルスクエア」としてリニューアルオープン。独自開発のソフトを用いた、船や航空機の本格的な設計・操縦体験「3D_CAD WORKS STUDIO_Pro. (3D_CAD ワークス スタジオ プロ)」と、特殊な仕掛けのテーブルと 3D スクリーンを組み合わせた新しいシステムにより、蒸気機関車や自動車の製作体験が可能な「Future Factory (フューチャーファクトリー)」という 2 つの展示を新設。「3D_CAD ワークス スタジオ プロ」では、三菱重工業 (株) の各分野の現役技術者からの全面的な協力を得てソフトを開発。「フューチャーファクトリー」では、最大 24 人の参加者が「専用デバイス」と「3D メガネ」を用いて、協力しながら仮想モデルを組み上げていくワークショップタイプの展示となっている (体験時間は約 20 分)

横浜・八景島 シーパラダイス [神奈川県横浜市] 2009.03
自然界の魚類の生態を再現した「新展示水槽 群れと輝きの魚たち」がオープン。国内最多の5万匹のイワシをはじめ、大小約30種を飼育し、「群れ」「回遊」「捕食」の行動3要素を間近で観察。1993年開業時に「国内最大級」とうたわれた大水槽（深さ8m、水量1500トン）の展示を一新し、「行動展示」を導入。飼育される魚類は約6万匹。来館者は水中エスカレーター「アクアチューブ」に乗り、下、中、上層の順で魚類の群れを見ることができる。新展示水槽では、サメの仲間「シロワニ」の繁殖も目指す
柏崎原子力広報センター（アトムミュージアム）[新潟県柏崎市] 2008.04
1階の展示コーナーをリニューアルオープン。リピーターを呼び込めるように、従来の展示スペースを半分に減らして、理科教室や工作などが楽しめる実験空間「アトムーらほ」を整備。原子力などについて学べるゲーム形式の新たな展示物を4種類導入。エレベーターを設置するなど、バリアフリー化も実施
兼統お船ミュージアム（長岡市与板歴史民俗資料館）[新潟県長岡市] 2009.01
NHK大河ドラマの主人公・直江兼統関連の展示を拡大し、リニューアルオープン。兼統の妻で与板出身のお船の特設コーナーも設置。兼統の書状（複製品）など、展示品を増やしたほか、お船のコーナーでは、大河ドラマの撮影で使われたお船の衣装や小道具などを見ることができる。愛称は公募で「兼統お船ミュージアム」に決定
燕市産業史料館 [新潟県燕市] 2008.11
本館隣に「新館」を建設。それまでは、昭和初期から戦前までの展示にとどまっていたため、戦後の歴史の紹介を目的に整備を実施。「日本の金属洋食器展示室」「世界のスプーン館」など、ユニークなコーナーを設置。世界的なスプーンのコレクターとして知られた故・伊藤豊成のコレクションの一部を展示するほか、戦時中に作られていた機関銃の弾倉やサーベルの装飾品などの軍需産業関連製品も展示。併せて、本館の総バリアフリー化や新館との連絡通路の設置、外装補修などの改修工事も実施
悠久山小動物園 [新潟県長岡市] 2008.11
環境省が進める「トキ分散飼育事業」の飼育地指定を目指し、園内に建設を進めてきたトキ近縁種の飼育施設が完成。飼育ゲージ、孵化育雛室、事務室などで構成。施設の完成に合わせて、多摩動物公園からトキ近縁種を譲り受け、飼育・公開を開始。環境省・多摩動物公園・上野動物園の専門家からアドバイスを受けて、飼育繁殖を目指す
猪谷関所館 [富山県富山市] 2009.03
施設の老朽化に伴って改修工事を行い、展示内容を一新するとともに、バリアフリー化を実施。越中と飛騨を結ぶ飛騨街道の要所に置かれた富山藩西猪谷関所を、実物の6割の大きさで再現（ジオラマ模型）。街道一番の難所と言われた「籠の渡し」の体験コーナーも新設。時代の変遷を紹介する解説パネルなども展示
石川県立美術館 [石川県金沢市] 2008.09
開館40周年を機に取り組んだ、施設の老朽化に伴う改修工事が完了し、リニューアルオープン。鉄筋コンクリート2階建ての同館の延床面積は約1,000㎡拡張。展示室やロビーは明るく開放的なイメージに刷新。収蔵庫も増築して収容能力を50%増やした。エントランスホールや展示ロビーなどの窓を大型ガラスに変更し、4基のエスカレーターを設置。正面玄関への階段、スロープも刷新した。ミュージアムショップはエントランスに移設し、総合案内との一体化を図っている。ミュージアムショップのあった場所には情報図書コーナーを設置。増築したカフェは世界的パティシエの辻口博啓氏がプロデュース。今回の改修を機に、これまで前田育徳会尊経閣文庫の寄託品を保管していた展示室を同文庫分館に刷新した
石川県立自然史資料館 [石川県金沢市] 2008.04
改修により石川県内の自然を標本や映像で紹介する展示室「自然たんけん広場」や、旧制四高で使われていた物理実験機器の展示室「物理たいけん教室」などを新設。「物理たいけん教室」では、音や光の原理を遊びながら学ぶことができる実験スペースとしても活用。講演会などに使えるコミュニケーションホールも新たに設置
石川四高記念文化交流館 [石川県金沢市] 2008.04
「石川近代文学館」と「石川四高記念館」からなる「石川四高記念文化交流館」としてリニューアルオープン。同館は、もともとあった石川近代文学館をリニューアルし、石川四高記念館を併設する形で拡充オープン。近代文学館では、泉鏡花、室生犀星、徳田秋聲や五木寛之など、金沢ゆかりの作家を紹介。四高記念館では、学生寮の模型や四高当時の教室を再現。改修は、入館者数の減少と施設の老朽化に伴い実施され、スロープやエレベーターも完備するなど、バリアフリー化も実現した。改修前の石川近代文学館にはなかった四高、石川の風土と文学、金沢三文豪を紹介するガイダンス室を設け、展示内容を充実。「旧第四高等中学校本館」の同館は、国重要文化財の指定を受けているため、間取りは変えずに壁や床、天井の塗装、じゅうたんを新しくした
金沢ふるさと偉人館 [石川県金沢市] 2008.04
展示内容や展示方法を一新してリニューアルオープン。子ども向けにイラストを多用し、紹介する偉人の数を8人から17人に増加。展示は偉人を別々に紹介する方法から「近代科学の創始者」「明治3年の奇跡」など、5つのジャンルごとにまとめて紹介する方法に変更。偉人同士の交友関係も解説
のとじま水族館 [石川県七尾市] 2008.04
「海の自然生態館」の水槽をリニューアルし、「アザラシ万華鏡」としてオープン。スナメリに代えて、ゴマフアザラシの雄2頭のほか、ホッケ50匹、サケ50匹、ババガレイ5匹を展示。基本水槽とそこから突き出た円筒型水槽から成り、中には擬岩を設置。アザラシが円柱水槽を泳ぎ回る様子を観察することができる。加えて、新水槽「スナメリと海藻の海」をオープン。新水槽の水量は450トン、スナメリ3頭とメバル約1,500匹のほか、ジャアントケルプやイソモク、アカモクなどの海藻類を展示。海藻が茂る水中をスナメリやメバルが泳ぎ回る様子をできるだけ忠実に再現（現在はスナメリが亡くなってしまったため「魚の群れと海藻の海」として展示）

越前松島水族館 [福井県坂井市] 2008.04・2009.03
2008年4月、南米に生息するフンボルトペンギンの展示施設「ペンギンランド」を増設。施設壁面には、南米沿岸の風景を描き、陸上にはサボテンのレプリカを配置。2009年3月、新しい「かわうそ館」がシアター館1階に開設。飼育室は3室あり、うち1室は繁殖用飼育室となっており、出産・子育ての時期にはコツメカワウソの状態が安定するまで閉鎖できる構造。旧展示館にはなかった水中観覧面が設置され、水中を泳ぎ回るコツメカワウソの様子を窓ガラス越しに観察できるほか、記念撮影も可能
大野市歴史博物館 [福井県大野市] 2008.04
隣接する大野市産業文化展示館（閉館）を活用して、新展示室を整備。第1展示室として所蔵品を中心に約30点を紹介。所蔵品、越前大野城内の展示品、銀山の鉱石などから奥越地方の文化、産業の歴史を網羅的に紹介。従来の展示スペースは第2展示室として、これまで通り約100点を展示。新展示室は特別展などにも活用
なるさわ富士山博物館 [山梨県鳴沢村] 2008.07
2007年4月から休館していた同館が再オープン。鳴沢村が指定管理者制度を導入し、観光事業を手掛ける民間企業が同館の運営を再開。再オープンに伴い、1階ロビーを改修して、宝石や水晶を販売するミュージアムショップを新設
平山郁夫シルクロード美術館 [山梨県北杜市] 2008.07
増築工事を行い、「新館」をオープン。増築に伴い、展示内容と教育・普及活動の拡充、設備機能の向上、バリアフリー化を実施。新館には、大小の展示室（4室）、ミュージアムショップ、屋上にウッドデッキの広場を設置。本館2階部分には、ビデオ・図書コーナー、ラウンジを新設。新館の展示ケースの照明には、環境に配慮した最新のLED照明を採用
富士吉田市歴史民俗博物館 [山梨県富士吉田市] 2008.04
山梨県指定文化財の「御師 旧外川家住宅」を同博物館附属施設として一般公開。旧外川家は、昭和40年に廃業するまで200年以上、富士山を信仰の対象とした富士講の宿坊として使用された（御師は、自宅を宿泊所として提供するなどして、富士信仰を広める役割を果たした人々）。同家が所蔵していた古文書約3,000点、御師の道具類約4,000点の一部を展示 ※2011年6月、国指定重要文化財として告示
山梨県立美術館 [山梨県甲府市] 2009.01
本館常設展示室を改修して「ミレー館」をオープン。2008年に開館30周年を記念して新たに購入したミレーの「眠れるお針子」など油彩画4点が公開。ミレー館は2つの展示ゾーンで構成され、第1室は大地をイメージしたアースカラー、第2室は森をイメージした自然色系で壁の色を統一。第1室では「種をまく人」などミレーの主要作品を、第2室ではバルビゾン派の画家の作品を展示。ミレー、ジュール・ブルトンなど、新規購入作品によって、バルビゾン派の油彩作品はミレーを含む11作家28点に増加。リニューアルに合わせて、写真や資料パネルの充実など、展示の工夫が図られたほか、ロビーには視覚障害者向けの「手で見えるミレー」（立体コピー）の新たに常設展示。ミレー館のオープンに伴い、本館特別展示室は日本画、洋画、版画などの常設展示室として、南側展示室は特別展示室として活用
安曇野ちひろ美術館 [長野県松川村] 2009.03
世界各国の絵本原画コレクションの増大に伴い、新たに建設をしていた「新収蔵棟」が完成。壁に米杉を使い、空調を工夫した収蔵庫をはじめ、資料研究室、修復やほこりを取り除く時に使う隔離室などを整備。建設に合わせて身障者専用駐車場を拡充したほか、授乳室も新設。収蔵作品は1万6,900点。資料研究室は研究者などに公開（予約制）
須坂市動物園 [長野県須坂市] 2009.03
「第2カンガルー舎」がオープン。人気のアカカンガルー「ハッチ一家」の長男・クラッチが成長し、第1カンガルー舎が手狭になったため、新たに建設。来園者が鉄柵の中に入れる「ふれあいスペース」も整備され、イベント時には開放
戦没画学生慰霊美術館「無言館」 [長野県上田市] 2008.09
収蔵品の増加などに対応するために、新施設「第二展示館」をオープン。第二展示館では、「傷ついた画布のドーム」と名付けられた展示室で、無言館開館後に寄せられた画学生の作品などを展示。画集や戦争資料、絵本など約2万5,000冊を収蔵する図書室「オリーズの読書館」を併設
長野市茶臼山動物園 [長野県長野市] 2009.03
「ニホンザル舎」がリニューアルオープン。長野市内の公園で不用になった遊具や廃品を活用し、手作りの遊具を猿山をリニューアル。既設のジャングルジムと雲梯に加え、スプリングで前後左右に動く遊具や、滑り台や木枠の中に砂場のようにチップを敷き詰めたもの、ロープをのれん状に垂らした遊具など、職員による手作りの遊具が導入
岐阜市科学館 [岐阜県岐阜市] 2009.03
参加体験型の新展示装置「たつまき実験」と「雲をつくろう」が気象分野の展示コーナーに新たに設置。たつまき実験は、筒状の空間内で人口的に竜巻を発生させる装置。雲をつくる装置は、ガラス容器の空気圧を急激に変化させることで、無数の小さな水滴（雲）を作りだす装置
下呂温泉合掌村 [岐阜県下呂市] 2008.07
影絵を使って郷土の伝説や昔話を紹介する「影絵昔話館しらすぎ座」がリニューアルオープン。しらすぎ座ではこれまで文楽や大衆演劇を上演してきたが、入館者の減少などを機に、地域性を取り込んだ影絵昔話館として改装。ステージ全面に3面の大型スクリーンを設置
中津川市中山道歴史資料館（中山道中津川宿「旅人館」） [岐阜県中津川市] 2008.06
旧中山道中津川宿「脇本陣」が修復を終え一般公開。「脇本陣」の建物を持ち主だった森家から寄贈されたことにより、最高級の部屋である「上段の間」、土蔵、森家の母屋などを改装して公開。欄間や床の間、土蔵の平瓦を張った格子状の「なまこ壁」はそのままま生かされている。中津川市は、残されていた絵図を参考に「次の間」と玄関を古い様式で増築し、脇本陣らしい雰囲気で復元

飛騨高山まつりの森 高山祭りミュージアム・世界の昆虫館 [岐阜県高山市] 2008.07
「世界の昆虫館」がハイビジョン映像や生態ジオラマを導入してリニューアルオープン。昆虫館では、それまで3万種10万点の標本を展示。開館10周年を機に、動的な演出を検討し、昆虫愛好家の亀山充氏が所蔵する昆虫の映像を、数々のモニターや、ギフチョウの生態を紹介するジオラマの中で上映するなど、見せ方を一新。インドネシアに生息するゴクラクトリバナエゲハ」などの貴重な映像とともに紹介
熱川バナナワニ園 [静岡県東伊豆町] 2008.07
開園50周年を機に、ワニの行動展示型の施設をオープン。インドガビアルなど、6種類計30頭を飼育していた6つの池を取り壊し、強化ガラス製の3つの水槽に改修。水槽の底を高さ約1mに上げて、目線の低い子どもでも水中で動くワニの様子を簡単に観察できるようにした。通路の上に水槽を配置して、下から腹や尾の動きを見ることができる工夫や、雨天時の見学をスムーズにするドームなども新設
下田海中水族館 [静岡県下田市] 2009.03
旧ラッコ館を改装して、「アザラシ館」をオープン。アザラシプールで飼育していた2頭のゴマフアザラシ、ハルキチ（雄）とサクラコ（雌）をアザラシ館で公開
東海大学海洋科学博物館 [静岡県静岡市] 2008.07
サンゴ礁の海底をすみかとする生物を集めて展示する新施設「きらきら☆ラグーン」がオープン。円柱水槽ホールを全面改修し、さまざまな「ラグーン（礁湖）」を再現。ヒトデ、光る貝、エビと見張り役のハゼ、ナマコ、シャコ、カニ、エビにサンゴ礁を泳ぐ熱帯の魚など約80種類を展示。「トンネル水槽」「潜望鏡水槽」「波起こし水槽」など、ユニークな水槽で紹介
浜松市動物園 [静岡県浜松市] 2009.03
レッサーパンダとミアキヤット、カワウソを間近で見学できる行動展示を取り入れた「新獣舎」が完成。新獣舎は老朽化した施設のリニューアルを進める長期整備計画の一環としてキジ舎跡地に建設。レッサーパンダ2匹と、ミアキヤット8匹、カナダカワウソ1匹を展示。金網や塀などがなく、ガラス越しに水中の様子を見ることができるように整備
富士市立博物館 [静岡県富士市] 2008.11
新しい屋外展示「旧稲垣家住宅」がオープン。旧住宅は、1804年に建築された、年代がわかる範囲では富士市内に現存する最も古い民家で、富士市指定有形文化財の一つ。明治時代に養蚕をするために「兜造り」の屋根に改造されたと考えられ、養蚕農家の工夫が各所に見られる ※2009年3月、静岡県指定有形文化財に指定
蒲郡情報ネットワークセンター 生命の海科学館 [愛知県蒲郡市] 2008.04
カンブリア紀の動物化石を紹介するコーナーが開設。同館名誉館長で中国・西北大学の古生物学者・舒徳干（シュ・ドゥガン）教授が中国南部の雲南省で発掘した化石を紹介するコーナーとして整備。蒲郡市が資料の寄託を受け、常設展示を開始。カンブリア紀初期の世界最古の標本とされるヤツメウナギの仲間の魚類化石「ハイコウイクナス」など、6種の化石を展示
窯のある広場・資料館 [愛知県常滑市] 2009.01
INAXライブミュージアム内の「窯のある広場・資料館」2階の常設展示が12年ぶりに刷新。白色の陶磁器製の便器に藍色で花や鳥を描いた「染付古便器」を紹介。染付古便器は明治時代、富裕層や料亭の間で流行。朝顔型小便器や、華麗な装飾が施された小判型大便器など計77点を展示。旧家の厠を再現したコーナーも新設
でんきの科学館 [愛知県名古屋市] 2009.03
3階の「原子炉模型」をリニューアル。最新鋭の浜岡原子力発電所5号機（ABWR、改良型沸騰水型軽水炉）のモデルに更新。新モデルは実際の1/4スケールで、モニターなどスクリーン三面と模型、照明によって、約5分のストーリーで原発の仕組みなどをわかりやすく紹介。体を使いながら原子力を学べるフットスイッチ式「体験ゲーム」を4台に倍增
豊橋市自然史博物館 [愛知県豊橋市] 2008.04
2年がかりの大規模リニューアル工事が完了し、「中生代展示室」がリニューアルオープン。今回新たに購入したユアンモウサウルスをはじめ、恐竜10体（従来は3体）の全身骨格を展示するほか、新たに設置した「恐竜劇場」では、300インチのスクリーンで、映像とジオラマを組み合わせて恐竜の生態を紹介。リニューアルによって中生代展示室の面積は1.5倍に、展示資料は87点から300点に増加。三疊、ジュラ、白亜と時代ごとの植物化石だけでなく、アンモナイト、魚類、海生爬虫類、ほ乳類など、類ごとの展示も充実
豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）[愛知県豊橋市] 2008.04
2006年度から園内に建設してきた「サルデッキ」が完成。サルデッキは高さ7m余の展示ケージ。これまでのモンキーアパートに比べ3倍のスペースが確保され、専用の寝室付き、冷暖房完備。入園者は高さ3.3mに設けられた観覧用デッキを歩き、目線で樹上にいるサルを観察することができるように整備
名古屋市東山動植物園 [愛知県名古屋市] 2008.11
再生プランに基づく最初の施設「チンパンジー舎」が完成。運動場に建てられた高さ11mの「チンパンジータワー」を中心に、立体的な構造が特徴。鉄骨タワーからロープを張り巡らせ、緑を植えるなど、樹上で暮らすチンパンジー本来の生活環境を再現。ガラス箱状のコミュニケーションボックスも設置。チンパンジーが中に入り、ガラスを隔てて間近に引き合える施設に整備
ブラザー コミュニケーション スペース [愛知県名古屋市] 2008.04
ブラザー工業（株）が創業100周年記念事業として展示施設を拡張オープン。ミシンの歴史をたどる新展示スペースを公開。ミシン展示では、1790年代に特許申請された「トーマス・セントミシン」の復刻版のほか、世界から集めたミシン70台を紹介。展示パネルの映像には、ブラザー工業（株）が開発したICタグシステムを導入し、タグをかざすと関心がある説明画像を見ることができるほか、来館者が何に関心を持ったかなどの動向も確認することが可能

伊勢現代美術館 [三重県南伊勢町] 2009.01
彫刻作品約10点を常設する別館の屋外彫刻館「宇空」がオープン。敷地内に展示室と庭園を造成し、大平賢氏の「Origin（起源）」や、広島市出身の岡本敦生氏の白御影石の楕円体の彫刻作品などを展示
鳥羽水族館 [三重県鳥羽市] 2008.04・2008.06
2008年4月、「水の回廊」コーナーに新しく「ひれ脚類水槽」をオープン。アフリカオットセイ3頭、ゴマフアザラシ2頭を展示。目線が来館者と同じ高さになるよう、上げ底に設計。陸地のほか、円形水槽も配置し、水中で泳ぐ様子も見ることができるように整備。2008年6月、同コーナーに「ペンギン水槽」と「カワウソ水槽」が新たにオープン。約40羽のフンボルトペンギン、2頭のビロードカワウソ、4頭のコツメカワウソを飼育。間近でペンギンが泳ぐ姿を見られる遊泳大水槽は、仕切りがないため、ペンギンを目の前で観察することが可能。カワウソ水槽は、ガラス1枚を隔てて来館者の足下をカワウソたちが歩くように整備
滋賀県立近代美術館 [滋賀県大津市] 2008.10
若手芸術家を支援する目的で館内に「ミニギャラリー」をオープン。手狭となったミュージアムショップの移設に伴い、旧ショップスペースを展示スペースとして活用
野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）[滋賀県野洲市] 2008.10
開館20周年を記念してリニューアルオープン。1階のエントランスホールが明るい雰囲気になし。「学習・体験コーナー」を新設し、常設展示も内容を充実。野洲市内で出土した日本最大の銅鐸（高さ1.34m、東京国立博物館蔵）を忠実に再現した復元銅鐸は1階エントランスホールに移され、自由に触れられるように整備。学習・体験コーナーでは、弥生時代の衣装「貫頭衣」を着たり、火おこし体験が可能。2階の常設展示は、旧野洲町と合併した旧中主町の資料を追加
宇治市源氏物語ミュージアム [京都府宇治市] 2008.09
「源氏物語千年紀」に合わせ開館以来初となる大規模リニューアルを実施。大型スクリーンや照明を駆使して源氏物語の場面を再現するほか、平安時代の貴族の暮らしがわかる模型を新たに展示。俳優の緒方直人氏を語り役にした新作映画「橋姫」を上映。平安装束を試着し、記念写真が撮れる装置も導入
京都万華鏡ミュージアム 姉小路館 [京都府京都市] 2008.06
開館4周年を記念して制作された「投影式万華鏡」を公開。約1時間おきに約5分間、展示室内の天井、壁面、床に万華鏡が投影される
六波羅蜜寺 宝物館 [京都府京都市] 2008.10
約30年ぶりに「宝物館」のリニューアルを実施。収蔵する木像の保存に最適な湿度が保てるよう、断熱材や発光ダイオード（LED）の照明を採用し、展示室を一新。業師如來坐像（平安時代）など、木像が一堂に鑑賞できるように工夫を図る
大阪市立自然史博物館 [大阪府大阪市] 2008.04
「生き物のくらし」をテーマにした「第5展示室」が第二期オープン。同展示室は、第一期オープンしたスペースと合わせて計360㎡。生き物が環境やほかの生物と影響し合う様子を人形劇やゲーム、映像などで紹介。第二期の展示は8つのコーナーで構成
大阪市立科学館（夢宙ときめき館）[大阪府大阪市] 2008.07
9年ぶりとなるリニューアルを実施。目玉は、1階入口の無料スペースに復元・設置された東洋初のロボット「学天則」（実物大動態模型）。空気圧を利用した滑らかな顔の表情や腕の動きを再現。3階には大人向けの化学をテーマにした展示スペースを設置。2トンの岩塩や鉱物、プラスチックなど化学反応で生成される物質とその原材料を展示。2階には風や音の現象を実際に体験できるコーナーがあり、子ども向けに展示物の高さを低く設定。1階は送電鉄塔の設置による電気の仕組みを学べる展示にリニューアル
国立民族学博物館 [大阪府吹田市] 2009.03
常設展示「アフリカ」と「西アジア」（中東）がリニューアルオープン。常設展の地域展示は、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アイヌ民族も含めたアジアの8つのエリアの合計12エリアで構成。リニューアルでは、「展示される側」の視点も取り入れ、地域や民族の現在に着目して、その地域や民族の世界とのかかわり、日本との関連にも重点を置いている。同館では、今後5年間で全展示の刷新を計画
みさき公園 自然動物園 [大阪府岬町] 2009.03
開園50周年を記念して新「イルカ館」をリニューアルオープン。同園の命名権を取得した（株）伊藤園は「伊藤園シャイニースタジアム」と命名（2012年4月からは「ユーボス シャイニースタジアム」に改名）。観客席は939席。最大6頭のイルカが泳ぐショープールの正面は透明で、水中のイルカを観察することができる。また、浅瀬のあるサブプールでは観客とイルカが触れ合うこともできるように整備
神戸市立王子動物園 [兵庫県神戸市] 2009.03
「シマウマ舎」の改装が完了し、約3年ぶりにシマウマの展示を開始。シマウマを近くで観察できるように、ガラス越しに観察できる「ビュージェルター」を整備するとともに、入場者が岩陰に隠れて隙間から観察できる「のぞきビュー」を2カ所に設置
神戸市立須磨海浜水族園 [兵庫県神戸市] 2008.12・2009.01・2009.02
2008年12月、本館2階から1階へ続く約70mのスロープを、老朽化に伴い改修。壁面にイルカやクマノミ、マンボウ、シーラカンスなど約60種類を描いたほか、2カ所に映像でマダラトビエイやコウモリダコなどの生き物を紹介するコーナーを用意。イルカやクジラの鳴き声など、音による演出も導入。2009年1月、開園以来初となる「ウミガメプール」の改修を実施。水槽は1.5倍に拡大し、ガラスも交換。餌やり体験も実施。2009年2月、ナマコなどの水生動物に直接触れることができる「タッチプール」を、老朽化に伴いリニューアル。新しいタッチプールはドーナツ状で、壁を透明にし、中を見やすく整備。中央部には円柱形的水槽を設置し、生き物を見ながら触れ合うことが可能

竹中大道具館〔兵庫県神戸市〕2009.03
開館 25 周年を機に、開館以来初となる常設展示の全面改装を実施。展示構成を見直し、見どころがすぐにはわかるように再構成を図った。各階を「伝える（歴史）」「造る（木と鉄）」「極める（名工）」の 3 テーマに分け、実物資料やパネルのほか、情報端末「見たままナビ」（タッチパネル画面）を各コーナーに設置するなど、よりわかりやすく楽しめる展示を導入。「鍛冶」「大工」の仕事場の実物大再現も実施。大道具コーナーでは模型とビデオで紹介するほか、大型模型展示、名工品ギャラリーなどを整備
姫路セントラルパーク〔兵庫県姫路市〕2008.08
コツメカワウソの展示場が場所を移動し、新たな展示場としてリニューアルオープン。新しい展示場は長さ 13m。人工の石で巣穴や小さな滝を設置。側面をアクリル張りにして近所で観察できるように整備
鳥取県立山陰海岸学習館〔鳥取県岩美町〕2008.07
メーン水槽 1 基と小型水槽 8 基を新設して、リニューアルオープン。カナリイカやハナイカ、国内での展示公開は珍しいウミウシ科やリュネットメリベなどを展示
水木しげる記念館〔鳥取県境港市〕2008.06
開館 5 周年を記念して大幅に展示を入れ替え、リニューアルオープン。広重の「東海道五十三次」にヒントを得た 2003 年制作の「妖怪道五十三次」の複製 55 点や水木しげる氏の歩みを描いた「人生絵巻」、短編漫画「地獄流し」の原画などを新たに展示
鳥根県立しまね海洋館（アクアス）〔鳥根県浜田市〕2008.11
ペンギン 4 種を展示する新施設「ペンギン館」がオープン。2 階建ての建物には、屋内、屋外の 2 つのプールを整備。2 階では、ペンギンの地上の姿を観察することができる。1 階は、観覧スペースをプールの下に潜り込ませる形で設置。ガラス張りの天井から、ペンギンが空を飛ぶように泳ぎ、餌をとるなどの水中での姿を観察できるように整備
ワコーミュージアム〔岡山県笠岡市〕2008.04
（財）ワコースポーツ・文化振興財団の設立 15 周年を機に、同財団が開設するワコーミュージアムが増床してリニューアルオープン。「市民顕彰ミュージアム」と名付けられた新展示室では、笠岡ゆかりの画家の作品や、笠岡洋画界の基礎を築いた与志美登野のコーナーが設置
呉市海軍歴史科学館（大和ミュージアム）〔広島県呉市〕2008.07
敷地内に「シーサイドカフェ・ビーコン」がオープン。「飲食ができる憩いの場を」との要望に応え、呉市が大和ミュージアム西側に建設。天井には呉市一帯の地図をデザイン。ガラス張りの店内からは、呉港や、てつものくじら館に陸上展示された潜水艦などを一望することができる
広島大学総合博物館〔広島県東広島市〕2008.05・2008.11
2008 年 5 月、大学院の研究成果などを展示する「サテライト館」が大学院文学研究科にオープン。イランの遺跡からの出土品や、日本に古くから伝わる筆記具「角筆」による注釈が残る文献、高さ 2.25m の実物大のハムラビ法典の複製など約 200 点を展示。2008 年 11 月には、理学研究科のサテライト館がオープン。コケや鉱物の標本展示や理学研究科の歴史がわかる貴重な資料を展示
秋吉台自然動物公園（サファリランド）〔山口県美祿市〕2008.10
動物ふれあい広場内に、フクロウの耳やタカ目の目を疑似体験することができる「キッズサファリ・森エリア」がオープン。草の中に置かれたトラの模型を、モノクロに見える特殊な窓からのもじ、トラのしめ模様で迷彩色になっていることが体験できる施設や、バラボラ集音装置を使って、フクロウの顔が持つ集音効果を体験できる装置などを設置
徳島県立大鳴門橋架橋記念館（エディ）〔徳島県鳴門市〕2008.05
鳴門海峡の自然に興味を持ってもらうことを目的にミニ水族館「ミニニ魚っちゃん」がオープン。水槽 6 つに、スズメダイやカサゴ、ハコフグ、イソギンチャク、ウミウシなど、魚や軟体動物約 50 匹が生息。深さ約 30cm のタッチングプールでは、海辺の生き物に触れることができる
香川県立ミュージアム（旧：香川県歴史博物館）〔香川県高松市〕2008.04
県立文化施設の再編に伴い、香川県歴史博物館と香川県文化会館の美術部門が統合し、「香川県立ミュージアム」としてリニューアルオープン。香川県内には県立美術館がなく、1966 年創立の文化会館がその役割を担ってきたが、展示スペースが手狭で老朽化が進んだことから、専門分野を集約し、多角的な展示や研究を目指す目的で統合を実施。県内初の歴史と美術が融合した複合施設に拡充。1 階ロビーでは彫刻など美術作品を展示。3 階にも美術作品の常設展示室を設けることで、香川県文化会館に比べて展示面積が増え、大型作品の陳列も実現。香川県文化会館は同ミュージアムの分館として再スタート
愛媛県立とべ動物園〔愛媛県砥部町〕2008.04
開園 25 周年を迎えた同園の「オランウータン舎」「ヒョウ舎」「ホッキョクグマ舎」の 3 つの獣舎のリニューアル工事が完了。オランウータン舎とヒョウ舎には、動物のストレス軽減を図る「環境エンリッチメント」に基づき、野生本来の生き生きとした動きを見せる「行動展示」を導入。オランウータン舎は、樹上生活している特性を引き出すように整備。2 本の塔を結んだ地上 11m のロープを移動する姿を観察することができる。ヒョウ舎は、高所を好む習性を観察することができるように 2 階構造とした。ヒョウを下から観察したり、2 か所設置された円形の窓から近所に観察することが可能。ホッキョクグマ舎は、側壁の一部をガラス張りに改修

本誌でご紹介した開設博物館、リニューアル博物館の中には、東北地方太平洋沖地震で被災された施設が含まれています。2013 年 1 月末現在、再オープンを迎えた施設も、再オープンを目指して取り組んでいる施設もございます。また、今回の調査報告には含めておりませんが、この時期にオープン、リニューアルしたものの、震災の被害により再オープンを断念せざるを得なくなり、閉館となった施設もございます。

東北地方太平洋沖地震で被災された施設及び職員の方々に心からお見舞い申し上げます。一日も早く復興が叶いますことをお祈りいたします。

開設博物館、リニューアル博物館に関するデータの集計・分析では、各館の開設（リニューアル）当時のデータに基づいて集計を行いました。2007・2008 年度の開設博物館情報、リニューアル博物館情報について、調査もれ、記載間違いなどがある場合は、ご教示いただければ幸いです。（石川・福岡）

四万十川学習センター　おさかな館〔愛媛県松野町〕2008.12
ウォータースライダーを備えた新しい「ペンギン舎」がオープン。2 羽の飼育が限界だったこれまでの飼育舎を改造。アクリルガラス越しにペンギンが泳ぐ姿を見られるほか、巣穴（6 基）や飛び込み台、水上を腹ばいで滑る特性を再現するウォータースライダーを整備
中村時計博物館〔高知県南国市〕2008.06
開館 10 周年を機に、展示スペースを拡充してリニューアルオープン。展示場を 3 倍に広げ、展示数は 1.5 倍の約 2,000 点に増加。新たに収集した国内外のぜんまい式やおもり式の機械時計、アンティークの掛け時計、懐中時計などを展示
九州大学総合研究博物館〔福岡県福岡市〕2008.05
学術標本約 250 点を展示する「常設展示室」を福岡市の箱崎キャンパスに新たに開設。工学部の移転で空いた旧工学部本館 3 階の階段教室（第 9 講義室）を改修。アマミノクロウサギの剥製など、九州・沖縄の絶滅危惧種などの動植物を紹介。巨大な化石や九大病院が保有する明治時代のカルテなども展示
西海国立公園九十九島動植物園（旧：佐世保市亜熱帯動植物園＜いしだけ動植物園＞※ 2011 年 4 月に館名変更）〔長崎県佐世保市〕2008.06・2009.01
2008 年 6 月、動物本来の習性に配慮した環境づくり（エンリッチメント）の一環として「アライグマ舎」をリニューアルオープン。間伐材や落ち葉、タイヤなどを用いて遊具や池、ねぐらなどを設置。来園者が観察しやすいように高さや配置に工夫を凝らす。2009 年 1 月、緑の相談所「花と緑とインフォメーション in 石岳」がオープン。花と緑に関する相談を幅広く受け付ける。同園と市民でつくる園の応援隊「サザンボス」が官民協働で運営。相談所には植物に関する図書なども揃える
長崎バイオパーク〔長崎県西海市〕2008.07
新たに「コツメカワウソ」の展示場がオープン。マレーシア国立マラッカ動物園との姉妹動物園提携により、コツメカワウソ 4 頭が寄贈され、新展示場の展示を開始。カワウソ展示場近くには「マレーシア情報館」も新設され、観光情報などを紹介
熊本県立美術館〔熊本県熊本市〕2008.04
本館に「細川コレクション 永青文庫展示室」がオープン。展示室は、本館南側の多目的室の内部を改装して開設。肥後細川家に伝わる美術工芸品や古文書を常設で公開。東京・目白の本部以外での常設展示は初めてで、文化・経済関係者を中心に根強かった地元からの要望を受けて実現
熊本市動植物園〔熊本県熊本市〕2008.07・2009.02
2008 年 7 月、施設の老朽化に伴い、「サル舎」の一部が約 40 年ぶりに新築。新築されたサル舎は、マンドリルやボリビアリスザルなど 4 種が入る 4 棟。それぞれのサルの生息域に生えている植物も植え、4 棟一帯を「サルたちの森」と命名。2009 年 2 月、エントランス広場にクロクモザル、ワオキツネザルが入る新サル舎「モンキーアイランド」が完成。活発なクロクモザルにはヤシの木や遊具を、おとなしいワオキツネザルには木の上でゆっくり過ごせるシキザキモクセイの木を設置。暖房機能を備えた人工岩もあり、夜間を過ごす獣舎内は冷暖房も完備。魅力ある動植物園づくりを目指して進める再編整備計画（5 期 10 年）の第 1 期分として実施
アートアマネ・さくらの杜美術館〔熊本県国富町〕2008.10
日本画家・立山周平氏が構えるアトリエ「アートアマネ」内の美術館がアトリエ開設 20 年を記念してリニューアルオープン。展示スペース部分を大幅に広げるなど、約 1 か月かけて改装を行い、同氏の作品約 200 点を展示。館の前庭には同氏が制作したオブジェも新たに配置
鹿児島県奄美パーク（奄美の郷・田中一村記念美術館）〔鹿児島県奄美市〕2008.12
常設展示室の西側に「特別展示室」が増築され、リニューアルオープン。美術館の総床面積は従来の 1.5 倍、展示スペースは約 2 倍に増加。展示室の壁には、奄美の赤土にアマミノクロウサギのふんをアクセントに埋めたれんがを用いて、独自色を打ち出す。特別展示室の開設により、5 年に 1 回しか展示ができなかった襖絵などの大型作品の一覧展示などが実現
かごしま水族館（いおワールド）〔鹿児島県鹿児島市〕2009.03
水族館 3 階のシアタールームに多彩なイベントに利用することができる新コーナーがオープン。休憩スペースや講演会、特別・企画展の会場などに利用するスペースとして整備
中村晋也美術館〔鹿児島県鹿児島市〕2008.08
「ブロンズ原型展示室」を新築し、美術館 2 号館として開館。スペース不足により、これまで分けて展示していた高さ約 7m、幅 4m のワーグナーの楽劇の世界を表したレリーフ「愛の国伝説」を一体化して展示。1、2 号館で計約 300 点を紹介



ミュージアム・データ No.77

2013 年 2 月 1 日発行

発行：(株)丹青研究所 〒110-0005 東京都台東区上野 5-2-2

http://www.museum.or.jp/tanseiken/

企画・編集：文化空間企画情報部 ☎03-3836-7598

©Tansei INSTITUTE